

幼の兒の教育

第 十 號 第 十 月 卷 六 十 三 第



東京女子高等師範學校內

日本幼稚園協會

文學士 寺田精一著

兒童の惡癖

◆重版!! 菊判洋綴全一冊紙數五百頁
定價金三圓五拾錢送料廿二錢

兒童惡癖の初期診斷と其治療
矯正の實際的研究書!!

教養者が特に注意してゐる問題であるに拘らず
兒童の惡癖はその處遇に關して頗る曖昧な態度が
取られてゐるのは、畢竟、惡癖の由つて來る所が複
雜であるのと、教育家にその方面の餘裕なき爲で
あり、従つて兒童の生活に對する周密な觀察や、懇
切な注意も屆かず、往々にして絶望的態度が先入
してゐることすら決して稀ではない。本書は教養
上より觀た主なる惡癖を選び、心理學的見地より
深く童心に立入つて考察したもので、これ等に最
も肝要な條件たる諸原因及び其の性質の何たるか
は勿論、癩となる虞あるもの、癩となるべき初期の
程度にあるもの、判斷と、その矯正法を詳述した
通俗且實際的な兒童教養書である。各小學校、幼稚
園の常備書として、教育家各位の御精讀を望む。

發兌 東京市牛込區
辨天町一七四區
振替東京三八四一七
中文館書店

東京高等師範學校教授 文學博士 小野島右左雄著

版四 最近心理學概說

本書の最も特長とすべき點は全卷一貫せる思想を以て凡ゆる精神事實を巧に解明し全卷暗示に滿ちる。本書上下二卷を味讀すれば一般心理學、兒童心理學、青年心理學、發達心理學、個性性格心理學、社會心理學、變態心理學、動物心理學、教育心理學等學者は本書に依つて斯學の一般智識を獲得すべきは勿論、兒童心理學の方法論、生活論、理論、新しき哲學の暗示を受け、教師は生徒の心理の最も即事體的な理解と應用を示され斯くてこそ心理學は科學の先陣に立ち此思想圖維の打開に資す。

文部省學校衛生官 醫學博士 吉田章信著
定價一圓二十錢送料廿二錢

新刊 新式學校衛生評價

本書は學校衛生施設の評価を研究したもので、全般的に學校衛生の向上を計り、其一部の施設に於て得たる効果を他の一部に於て失はざる程終始連絡を取り、更に在學中に得たる効果を生涯を通じて保有せしめ、最終始末連絡を國民を養成すべきを力説す。而して學校長、自校の衛生施設に對する態度と各務任の定められたる、學校に關する關係官廳に於ける施設、師範教育に於ける衛生評價に關する實習の必要等にも言及し、健康保持、一病教育に於ける正と缺陷者の保健、三、健康増進の三大綱目に別ちて當局者の採るべき道を巨細に互りに對して詳説し、斷見最高の指針とす。必讀。

版五 劣等兒 心理と其教育

等しく人類と生れ乍らも天賦程其の恵みに不公平の物はなほ、今般に兒童の天分を學的に分類して天才、最上智、上智、平均智、下智、愚鈍精神、弱能、低能、白痴に分類すると極端な低能兒は全兒童の約一%を占め、之れに下智、愚鈍、及びその偏異者を合すれば二十%と言ふ。著者は只管に之等世に構むべき人達の幸福を少しも増す爲に、より完全な教育を徳惠する爲に本書を世に問ふたのである。

東京帝國大學 文學士 青木誠四郎著
定價三圓八十錢送料廿二錢

新刊

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集

菊版三五〇頁

定價金壹圓五拾錢

郵稅

東京市内 金六錢

地方・北海道

臺灣・樺太 金拾錢

朝鮮・滿洲

さきに發行せられた東京女子高等師範學校附屬幼稚園編『系統的保育案の實際』は非常の歡迎を受け、既に多數の方々により研究せられ又實施せられても居ります。就いてはその中に用ゐてあります談話につき、便宜一まとめにした書物がないかとの御要求が澤山ありますので、此の談話集を編纂發行致しました。右保育案を御使用の方は素より、そうでない方にも、幼稚園談話選集として極めて御便利のものご信じます。實際御使用のために定價も普通の市價の標準を離れて、出来るだけ廉價にいたしました。本會の趣旨のあるところをお汲み取りいたゞけば幸いです。

三版

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際

定價金壹圓

送料金四錢

一保育案の實際は幼稚園必須の資料

一東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考
一待望の本書を全國幼稚園保母諸君に勧む

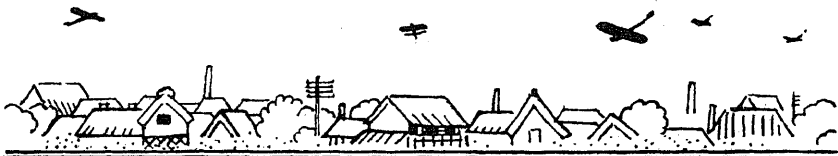
發行所

日本幼稚園協會

東京市小石川區大塚町卅五番地
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

振替東京一七二六六番

○定價及郵稅を添へ本會宛直接御註文下さい。



第 十 號 幼 兒 教 育 の 幼 兒 卷 六 十 三 第

—(次 目)—

口 繪	卷 頭 (十 月)	倉 橋 惣 三 (一)
子 供 へ の 放 送 に つ い て	小 尾 範 治 (二)	
舌 切 雀 の 展 開 (三)	小 池 藤 五 郎 (一〇)	
歐 米 幼 兒 教 育 視 察 記 (一)	高 市 慶 雄 (七)	
兒 童 心 理 學 文 獻 抄 (二)	牛 島 義 友 (四)	
系 統 的 保 育 案 の 實 際 解 說		(三)
生 活 訓 練	倉 橋 惣 三	
誘 導 保 育	菊 池 ふ じ の	
唱 歌 遊 戲	村 上 露 子	
談 話	小 島 そ の	
觀 察	新 庄 よ し こ	
手 技	小 島 光 子	
子 供 の 繪 に 就 い て	及 川 ふ み	
	山 形 寛 (三)	

東京音樂學校内 日本教育音樂協會編纂

新刊
第二輯

アホシヤウカ

アキノマキ 全一冊 定價 金四拾錢 送料 金四錢

大好評のエホンシヤウカ アキノマキ第二輯出來!!

目曲
カクレンボ、トンボ、マツムシ、ハト、カカシ、ヒカウキ、アメ、シカ、オマツリ、
モミヂ、ウンドウクワイ、キクノハナ、ハタギヤウレツ、スマフ、カミシバイ

既刊
第一輯

アホシヤウカ・マルノ
アホシヤウカ・マツノ
アホシヤウカ・ナツノ
アホシヤウカ・アキノ
アホシヤウカ・フユノ

テフテフ、タンポポ、ママゴト、エンソク、コヒノボリ、
アカチヤン、マリナゲ、オヤツ、オニゴツコ、ジドウシヤ、
テンノウヘイカ、オヒサマ、チユリーツプ、キンギヨ、ア
サガホ、カミナリサマ、ミツアソビ、スナアソビ、オウマ、
ナミ

ヒヨコ、ダルマサン、ウサギ、オツキサマ、カケツコ、オ
ヤシミ、ブランコ、オミヤゲ、ナハトビ、タンジヤウビ
オシヤウガツ、ユキ、オカアサマ、ピアノ、マメマキ、ギ
ツコンバツタン、オサル、ツミキ、オヒナサマ、ユメ

定價各冊金卅五錢送各二錢

振替東京六四七〇
電話神田〇八三三

音樂教育書出版協會

東京市神田區
錦町三十一

秋の日 靜に 流るゝ小川よ
舟は 子ども達の思ひを載せて……………



(園 稚 幼 屬 附)

幼 兒 の 教 育

昭 和 十 一 年 十 月

十 月

秋は園の丘の大銀杏樹のてつぺんから来る。茂り重ねて日光も通さないやうに黯ずんだ密葉の蔭に、先づ青く見つけ出されるものは、その柄の長い實である。それが一日々々肉つき色づいて来る。或る夜の風にみんな落ちて仕舞つたのかと思つて上を見るに、尙更多くなつてゐるやうにさへ思はれる無数の數だ。やがてその葉の色が、山の背のやうな北側から次第に黄ばみかけたと思ふに、或る朝寒にはもう眩しいやうな満樹の黄葉だ。朝日を迎へて輝く光、夕日に映えて照る光を見ずとも、澄みきつた碧空に、燦として聳立してゐる眞晝の雄姿の神々しいことよ。

私達は、その樹の下に子さも等しいつしよにゐて、偉なるものゝ前にゐる小さきものゝ心を寸差を捨てた^{つた}度^まに感じさせられるのである。有り難いことは仰ぐものをもつことである。

(倉橋惣三)

子供への放送について

東京中央放送局教養部長 小尾 範 治

子供を對象とする放送は現在「子供の時間」に「學校放送」の二種類ある。前者に於ては大體幼児から小學校高學年までのものを對象とし、後者は幼稚園に小學校兒童を對象としてゐる。先づ子供の時間の放送についていふならば、相手は年齢に於て相當開きをもつてゐるから、多少年齢層を考慮して番組を編成してゐるが、一般にいへば十歳前後位のもの眼中に置き、それ以下のものにも大體分り、それ以上のものには充分理解されるやうに工夫してゐる。けれども時には特別に幼児を眼中に置いて放送の内容や方法を考慮してゐる場合もあり、又時には多少年齢の多いものを對象とする場合もある。がしかし最も無難なものとしては比較的低い年齢層を眼中に置くといふことである。それは小さいものに面白いものは多少年齢の多いものにも決して興味がないことではないからである。けれども反對に年齢の多いものを眼中に置けば、自然に内容が複雑になり難解になつて、他のものに理解されないものになるからである。殊に「子供の時間」はためになると同時に面白いといふことを主眼としてゐる。それはいかんためになるものでも、興味がないならば子供の聴取慾を刺戟することが出来ず、従つてスイッチは入れて聴き初めてもすぐラヂオから離れてしまふからである。そこで「子供の時間」には材料としては教訓的のもの、知識的のもの、藝術的のもの等各方面のものを採り入れるけれども、その取扱ひ方を工夫して成るべく子供の興味を惹くやうに工夫し、例へば對話や劇の形式を用ひるさか、音楽を入れるさかして同じ内容で

もその取扱方についても興味さいふこゝに相當重點を置いてゐる。これについて最も苦心を要するのはお話である。お話も童話的のものは話し方さへ相當優れてゐれば、内容そのものは大抵子供に取つて興味あるものが多いから、一般に子供の聽取慾を刺戟することが出来るのであるが、科學や地理などに關するものについてはこれを子供に興味のあるものとするには充分なる工夫が必要である。即ち先づその材料の選定について子供の生活に即したものを、子供の經驗に訴へるこゝが出来ゑるものを考へなければならぬ。子供は一般に活きものや活動するものを好むから、動物に關するお話さか、乗り物に就てのお話さか、いふやうなものは材料としては子供の興味を惹き易いが、鑛物であるさか、化學についてのもの、聞いたこゝもない遠い地方のこゝなごは興味を惹き難い。従つて先づ放送で取扱ふ材料について子供の生活を中心として彼等に親しみがあつて、その興味を惹くやうなものを選定せねばならぬ。

しかしいかに材料が子供に取つて興味あるものであつても、お話の仕方が堅固しかつたり、難しかつたり、早すぎたり或は平々淡々たるものであつたり、又は力も熱もこもつてゐないものであつたりするならば子供には決して面白く聽かれない。即ち話し方が上手であり、うま味があり、潤ひがあり、或は力や熱があり、又速さも速すぎたり、ゆつくりしすぎたりするこゝなく丁度適當であるこゝなごが缺くこゝの出来ない要件である。けれども科學なごの問題についてお話をされる人は話し方の研究なごをしないのが常であるから、やゝもすればさういふ條件を缺き、折角のよい材料も面白く聽かれない場合が屢々ある。否、科學ばかりではないごの方面でも子供向きの話し方の上手な人は寧ろ少いやうである。そしてこのこゝにはあらゆるお話について常に深く考慮すべき問題であつて、たゞへ童話のやうなものでも話し方の巧拙によつてそれが子供に與へる感銘に非常な相違のあるこゝはいふまでもない。放送局に向つて子供の時間にもつて科學的な材料を取入れたらさうかさいふ意見を述べられる向もあり、そして吾々關係者も全く同感であつて、成るべく多くさういふ問

題を取扱ふこゝに努めてゐるが、これについての一つの難關は話し方の上手な科學者が少いこゝである。勿論科學的材料はお話ばかりでなく、對話や劇にも仕組めるし、單なるお話よりも一層興味のある取扱方も出來、又次にさういふ放送もしてゐるが、お話の方面でも例へば學校の理科の先生、それは専門でなくともそれに堪能な先生にお話の上手な人が澤山あれば、放送の上では非常に仕合せである。今後かういふ人々が續々現れて子供への放送を一層充實するこゝが出来るやうにしたいを念願してゐる。

二

「子供の時間」で一般に最も喜ばれてゐるのは音樂と劇であらう。音樂は近來我が國に於て非常な勢を以て普及し器樂も聲樂も相當多數の民衆がこれを鑑賞するこゝが出來、從て自分で樂器を扱つたり、歌つたりするこゝの出来るものも少くない。殊に小學校に於ける唱歌の教授が進歩したので子供の耳も次第に音樂に慣らされ、從て「子供の時間」に於ける音樂や唱歌の放送はかなり多く聽かれてゐるやうである。こゝでは子供が聽き慣れてゐる唱歌を上手に歌つたり、或は子供向きの童謠その他適當な聲樂や器樂を取扱つてゐる。殊に器樂は吹奏樂にせよ、管絃樂にせよ、曲が子供にも分るやうなやさしいものであれば、大抵の子供に喜ばれる可能性をもつてゐるので、これ等の放送は常に行つてゐる。また時には少し教育的にオーケストラなごを解説をつけて放送する場合もある。かやうに音樂はそれが子供向きのものでさへあれば彼等の興味を惹くこゝが多いので、他の種類の放送へも出来るだけ音樂を取り入れるこゝにしてゐる。それは音樂が子供の興味を惹くこゝが多いといふだけでなく、一般に音樂は放送内容を和らげ、これに潤ひを與へる上にも效果があるからである。

例へば地理のお話の中へ、その地方に因みのある唱歌や童謠なごが這入るこゝ堅い話でも餘程和げられるであらう。そしてこのこゝは幼児や小學校低學年兒童なごに對する放送には特に重要であると思ふ。それは彼等は年齢の關係上注意を持續

させることが困難であるから、適當な所に音樂を加へて注意や興味を新にしたり、或は初めにそれを置いて先づ彼等の注意を促すか、或は終りに音樂を加へて全體が面白かつたこゝいふ感じを與へるやうにするか、音樂や唱歌を加へるこゝの效果は少くないであらう。

音樂も同様に子供の喜ぶのは劇である。一時學校劇が色々な弊害があるといつて文部省から禁止されたのであるが、近年一般に藝術の普及發達に伴つてその教育的價值も一層重要視され、現に小學校なごでもこれについて研究を積んでゐる人もあり、又實際に子供に劇をやらせてゐる學校も少くないやうである。學校の子供に劇をやらせるこゝについては教育上留意すべきこゝがあるに相違ないが、材料が子供向きであり、又教育的であり、方法が普通の芝居なご違つて極めて簡素なものであるから、情操教育の上から見て差支ないこゝを思ふ。そこで放送に於ては兒童劇として學校の子供自身の劇を取扱ふ場合もある。勿論かやうな場合には先生の指導に依つてゐる。また童話劇や歴史劇或は理科劇なごもしばしば放送するが、これ等は時には黒人の俳優に依頼するこゝもあり、時にはそれ等の劇を専門に研究してゐる人々の手に依るこゝもあり、また理科劇なごはさういふこゝは特殊の技能をもつてゐる學校の先生に依頼するこゝもある。しかし何れにしても子供を對象とする放送劇は筋も成るべく單純でしかも明朗で興味を教訓を合せもつやうなものを選択してゐる。殊に子供がお話で知つてゐる童話なごを劇化したものは非常に面白く聽かれるやうである。

三

次に子供に對する放送として非常によく聽かれてゐるのは「子供の新聞」である。これは毎日の社會の出來事或は自然界の現象なごの中で極めて重要なこゝ、或は非常に珍らしく面白くこゝなごを選んで要領だけを短い時間に放送してゐるのであるが、材料には年上の子供でなければ分りにくいものもあるが、多くは大抵の子供がきいて理解し得る程度のもの

を分り易い文句で取扱つてゐる。例へばオリムピックの著しい競技とか、まことに大きな地震があつたとか、珍らしい動物が発見されたとかいふやうなことは誰にも分り、又誰でも興味をもつことが出来る。しかもそれについて極めて重要な點、興味ある側面だけを取りあげてやさしい言葉で發表するやうにしてゐる。これは主として社會や自然についての子供知識や經驗をも擴充することを目的とするものであるが、大人が聽いても相當に興味があり、殊に世間のことに遠ざかり勝ちな御人などには常識涵養の一助ともなるので、放送時間が夕食前後であるといふ事情も手傳つて、「子供の新聞」は可成り多數の家庭で子供を中心に大人までも聽いてゐるやうである。尙これはかやうに子供に喜ばれながら子供の常識を養ふ上に効果が多いので小學校でこれを教育に利用してゐる所が少くない。従て「子供の新聞」は放送後印刷して週報とし希望する學校へ頒布してゐる。

四

最後に學校放送であるが、これは三つの部門に分れ、「幼児の時間」、「小學生の時間」、「教師の時間」になつてゐる。「幼児の時間」は主として幼稚園や托兒所にゐる幼児を対象とするものであるが、勿論家庭で幼児に聽かせることも出来る。これは毎週一回、火曜の午前十時十分から十分間放送してゐる。その内容はやさしいお話、童話、唱歌音楽等であつて、幼兒的發達を助け、殊にその情操陶冶に資することを主眼としてゐる。幼兒は一般に落つきが乏しく、注意も散漫になり易く、殊に幼稚園などで大勢一緒にゐる場合にはさうなり勝ちであるから、團體的に放送を聽かせることは困難のやうに思はれるが、しかし一般に子供は新しい刺戟を求める心が強いので、一週一回の放送は相當興味を以て聽くやうであり又僅か十分間であるから少し訓練し、又保姆が指導するならば、靜肅に聽取させることは決して困難でないやうである。しかし放送をよく分らせ、且その教育的効果を收めるためには保姆の指導が大切であつて、殊にお話や童話などについて

は豫め梗概が放送協會發行のリーフレット「學校放送」によつて分つてゐるので、事前にどんなお話があるかといふことを子供に聞かせて置くこゝが必要である。それからそれに關係した繪、寫眞、模型、標本等があるならば、それを見せて置く方がよい。そして子供に豫めどんなお話かといふこゝについて若干の豫備知識を與へて置けば子供の了解が非常によいと思ふ。尤も餘り詳しく話してしまへば子供の好奇心をそぐ恐れがあるから大體の筋だけでよからう。また唱歌や童謡なども多くは子供の知つてゐるやさしいものであるが、豫めさういふものがこれから歌はれるかを知らせて置く方が便宜であらう。子供は自分の知つてゐるものが放送されるさう一緒に歌ひ出すやうであるが、これを適當に指導して聽いたり歌つたりして樂しみながら歌ひ方の上達を圖ることが出来るであらう。聽取中は一般に靜かに聽くやうに訓練することが肝要であるが、これは幾度か繰返す間に自然に習慣づけられるものと思ふ。尙聽取後にお話や童話については簡單な質問を發して子供に答へさせたり、或はそれを材料にして畫をかゝして見るのもよい。これも決して難しいこゝではなく。現に幼稚園でやらせてゐる所があり、子供も喜んでかくやうである。これは印象を深くする上にも効果があり、又子供の感覺機關や知能作用の練習の上にも價值あるこゝと思ふ。

次に「小學生の時間」であるが、これは尋常から高等まで各學年につき一週一回、十分乃至三十分間放送してゐる。但し尋常一、二年は何れもやさしい内容であつて別に分ける必要もあるまいといふので合併して週一回としてをり、又高等一二年は公民的並に職業的陶冶に重きを置き、自然共通の問題が多いのでこれも區分せずに週二回放送してゐる。その外に「朝禮の時間」にして隔週一回全兒童を対象として名士の訓話を放送してゐる。「小學生の時間」の科目としては修身公民、讀方、唱歌、國史、地理、理科、體操とし、學校の授業を繰返さず、學科ミ關聯を保ちつゝ兒童の知識や經驗を擴め、その情操を陶冶するこゝを主眼とし、また各科目をそれ々々單獨に取扱はず出来るだけ色々な科目から材料を取つて綜合的

にし、且成るべく音楽を加へたり、對話や劇の形式を用ひ、興味を以て聴取させることゝなつてゐる。即ち面白く且ためになることゝが學校放送の目標である。この點に於ては學校放送は「子供の時間」の放送と同様の立場にあるやうであるが、しかし前者は學校の教科と關聯してゐる所にその特質がある、これと異り、「子供の時間」は學科とは全く無關係にたゞ子供のためになり且興味があることに重點を置くものである。従つて兩者は形式に於て一致する場合が少くないが、内容に於ては相違する場合が多いことゝつてよい。「小學生の時間」については「幼兒の時間」以上に教師の指導が必要であつて、即ち事前に於て教科書の關係箇所を復習せしめることゝか、或は色々な教辨物等によつて豫備知識を與へることゝか、或は放送者の略歴等を話して置くことゝかして、出来るだけ内容に親しむをもたせるやうにし、又放送中は難しい言葉や固有者詞などを黑板に書いて示すことゝか、或は必要に應じ地圖その他を指し示すことゝか、又は要點を書き留めさせることゝか、内容に従つて適當なる指導を行ひ、又聴取後には兒童に大要を反復させることゝか、重要な點、興味のある點、或は分らなかつた點などを尋ねて見ることゝか、或は放送の材料を綴方、圖畫等に應用することゝか、放送の効果を大ならしめるために事後適當な處置を行ふことゝが肝要である。聴きつばなしことゝは最も避くべきことである。

最後に「教師の時間」は教授上參考となる新しい資料教育學教授法、兒童心理學その他教育に關する新しい研究、或は教師としての知的並に精神的修養に資するもの等を主なる内容とし、毎週三回放送することゝしてゐる。教師としての職分を全うするために教師の積むべき修養は缺くべからざるものであり、又これがために講習會に出席することゝか、圖書雜誌を購讀することゝか、その方法は種々あるが、放送の利用は最も簡易なものであるから、これは多數の學校で利用されてゐるやうである。しかしそれよりも最も多く聴かれてゐるのは「朝禮の時間」である。それは兒童が懂れてゐる各方面の名士に依頼して體驗に基く活きた訓話を放送するものであつて、全國多數の學童が大きな期待を以て耳を傾け、深い感銘を受けて

るるやうである。ラヂオ體操も多くの小學校で利用され、これによつて兒童の健康上或は規律訓練上の少からぬ効果を收めてゐる。幼兒竝に學童を對象とする放送も利用する幼稚園や小學校が漸次増加し、殊に地方なごでは非常に喜んでゐるやうに報告されてゐる。

何れにせよ「學校放送」は放送協會と學校との協力に俟つものであるから、その効果を大ならしめるためには互に接觸を密にし、希望、意見等に交換して改善向上を圖ることが必要である。この理由に依り幼稚園や小學校からさし／＼御意見なり、御希望なりを吾々の方へ御傳へ願ひたい。尙「子供の時間」の放送についても同じことを御願したい。

「舌切雀」の展開 (三)

東京高等學校教授 小池藤五郎

「舌切雀」の脚色された代表的の作品を記す事は、其の展開を知る上に必要であらう。「歌等功雀高名」(寶倉主作、黄表紙、寛政八年刊)は歌川豊國の挿繪であり、代表的の作品である。

抑々吉原雀の根本を尋ねるに、後漢の楊寶が花陰山クワインザンで巢に食はれやうとする巢立ちの雀を助けて歸り、飼養してゐるに、百日餘で羽根が生えて飛び去つた事が始である。この雀の子孫が日本へ渡り、延喜の帝の頃の福羅雀フクラスズメは其の子孫である。福羅雀は吉田の片ほりに住む爺婆に飼はれ、可愛がられてゐるが、或時洗濯の糊を嘗めたので、遂に舌を切つて追出された。雀は、

「糊を嘗めて舌を切られるは、酒を買つて尻を切られたよりましであらうか。いつそ舌がひり／＼する。舌ひり雀じや」。

なごゝ洒落る。雀は舌を切られたので三度の食事も出來ず、親雀は心配して醫者につけ、鳥の、まちの御符を戴くやら、鳥ごへの毘沙門様へハダシマキ、跪詣をするやら大騒である。

この様な事件が起つたにも知らず、爺は山から歸つて來、婆の物語を聞いて喫驚ビツア仰天し、雀を捜しに出た。雀は我家へ爺を迎へて非常に御馳走した。雀は舌を切られたので久しく外へも出なかつたが、今日はぶらりミ海邊へ出て見るに、風が強いので、吹き飛ばされて蛤が口を開いた中へ落された。蛤は雀をくはへたまゝで沖の方へ動いて行つた。

子雀が久し振に遊に出たが歸らないので、両親は心配し、向三軒兩隣を頼んで、椎の木屋敷から向島の方を捜してもらふ。蛤は開いた口へ雀が落ちて來たので、くはへて龍宮へ行き、雀に何か藝が有るかき聞くミ、竹に雀の輕業をするこいふので大に喜び、輕業師の蠨螺サザエに雀を賣つた。雀は龍宮の廣小路の兩國ニクニいふ處で輕業をはじめた。今まで豚の輕業蝙蝠の輕業などは聞いたが、雀の輕業はまだ無かつたので、大評判になつた。其の後雀は商賣を始め、鮎アサギの雀焼アサギノクヤキいふものをこしらへて賣つた。龍宮では、今まで金鏝キンツバヤキ焼、雁金カリガネヤキ焼はあつたが、鮎の雀焼は始めてだきて大評判になつた。併し焼くそばから雀は自分で食つてしまふので遂にこの商賣には失敗した。

失敗した福羅雀は貧乏雀になつたので、奉公しようとし、口入屋の手で表具屋へ住込んだ。其處で得意の雀ヌスノガタ形を張つて少し工面が良くなつたが、挿鉢の糊を又みんな嘗めたのでしくじり、遂に表具屋を逃げ出した。

雀は蛤の口へでも飛込んだら故郷へ歸れさうなものと思ひ、幸にも口を開いてゐる蛤が有つたので飛込んだところ、何處へか連れて行かれた。そのうちに蛤が口を開いたので、飛出して見るミ、蛤は既に汐干狩の人に拾はれてゐる、福羅雀は戀しい故郷の洲崎の濱邊へ出る事が出來た。

福羅雀は喜んで飛んで行くミ友達の雀に出會ひ、まだ碌に話もしないうちに鳥刺に刺されて安針町へ賣られた。鳥籠の中で末は鷹の飼食にされるものミ覺悟してゐるミ、宇佐八幡の御告によつて、諸國に放生會が始つたので、放鳥を賣る親仁に買取られ、淺草觀音の地内で放された。そこへ觀世音が現れ出て、「今日まで汝を守つたのは我ミ楊寶の靈である。今後は淺草の手品師芥子カイシノスケ之介の手品の種に使はれよ」ミお告げになつた。芥子之介の手品の種ミなつた雀は世間で大評判である。手品の大入で芥子之介も雀も金を儲けて工面が良くなり、雀は慰に義太夫節を習ひ、幫間になり、吉原雀イノいふ唄を作つた。この唄は今日まで歌はれてゐる。

可愛い、子には旅をさせるの諺の通りで、雀は今は本當の福羅雀になつて暮した。

斯うした特殊の小説に馴れない讀者は、これを馬鹿げた物に感じるかも知れない。天明、寛政の頃には、この様な小説が大人に最も喜ばれ、一種で一萬二三千部の出版數に達した作品があり、世界出版史上の驚異であつた。其の本質はナンセンスである。鳥ごへの毘沙門天・兩國の廣小路・洲崎なご江戸で有名な土地が現れて來、鳥のまぢ・芥子之介の手品、豚や蝙蝠の輕業、雀形・金鑄燒・雁金燒・鮎の雀燒なご當時人氣が高かつた物である。

話の筋でも知られる通り、明和五年十一月市村座興行「男山弓勢競」の第二番目に出した所作事「教草吉原雀」オシヤマシゼイクラクと言ふ拍子舞物を、「舌切雀」に取合せて脚色したものである。「教草吉原雀」は櫻田治助が書き、作曲は富士田吉治・杵屋作十郎、振附は二代西川扇藏であつて、江戸長唄で歌はれた。吉原雀ヨシハラは葦切アシキリの異名であるが、同時に廓を流す素見ヌケシぞめきの客の意味ミもなり、名作の長唄としては廓情調をもつてする大人の趣味である。従つてこの小説は大人に向つて「舌切雀」を脚色したものである。

さて七月號から述べて來た處を總括して「舌切雀」の展開を考へて見よう。

一 第一系統の説話は第二系統の説話よりも「腰折雀」に近く、これが「宇治拾遺物語」から展開して來た説話の、最初に完成した形らしい。即ち二家庭間の出來事で、老婆二人の場合が古く、悪い方は其の儘ままし、良い方が爺おやになつた話は新しい。悪い婆おばと良い爺おやを一緒にし、これを夫婦にした事は、童話の一般からは單純化の方法に據つたものである。第二系統の話が第一系統の話から分れて出たのは、大體に享保頃か或は少しくだつて元祿頃かと思はれる。

二 第一第二兩系統の話の終の方は、殺されるに改心するに二様に語られてゐる。この場合殺される方が古く、それを平和的・道徳的な改心に變化したものでらしい。従つて第一系統の話には殺される結末が多く、第二系統の話には改心

の結末が多い。これが後には混亂して兩者共にそれ／＼に語られてゐる。

三 糊は多くは洗濯に關係のある糊である。但し後年の物になるミ、障子を張る糊もなつてゐる。

四 雀を捜しに行つた場所は松原が古く、この松原から雀の隠れ里へミ案内されて行つたらしい。後年には多くは竹藪が雀の隠れ里の様に見られてゐる。

五 迎へに出たのは舌を切られた雀ミするのが古いらしい。小雀の意味が子雀ミなり、轉じて親雀が迎へに出たミなつたものか。親子子雀の關係は童話の聞き手ミ話し手の關係であつて、この意味から親雀の出迎が有力ミなつたものかもしれない。

六 雀を捜す際の言葉は、「舌きれ雀・舌きれ雀チ ヽツヽヽヽ」なミが古く、「舌切雀のお宿は何方ぢや」、「舌きり雀お宿は何處だ」・「舌きり雀お宿はミミだ。チウヽヽヽ」等は寶曆以後のものである。

七 切られた雀の舌が如何にして全治したかに就いては、記録は殆きない。但し、家藏の黒本「舌切すゞめ」に、「オ、おぢいさま、私の舌は藪井竹庵さまのお薬でなをりました」。

こあるのは誠に珍しい。

八 老人を款待する際の踊は、初は蓼の笠を被つて踊る雀踊であらう。それには「雀躍」の熟語もあり、「雀百まで踊忘れず」の諺もあり、従つて雀に付き物の踊が添はつたものであらう。後になるミ瀬川菊之丞の槍踊なミが世の大評判で、一時話の中にこれが挿入されたらしいが、それも一時で、雀踊は依然ミして離れぬ關係にある。但し踊の歌は記されず、後年の物には、

「君をまつかぜいぢや寒やチウヽヽ」

なごみ記してあつてこれも亦珍しい。雀が加害者を饗應した事は餘り記されてゐない。

九 後になる程正邪善惡が對立的に取扱はれ、惡婆は重い葛籠を強請する。重い方が軽い物より遙に内容的であると言

ふ考へ方は、一粒の瓢箪の種によつて得た幸福より、三粒の種によつて得る幸福の分量が大であらうとする。「宇治拾遺物語」の考へ方の展開であらう。この葛籠の數に就いては單に二個だけになし、初めに一方の人物が軽い方を取り、後の人物が残りの重い方を取つたミする話ミ、いつも輕重の二個の葛籠があり、いづれの人物もそのいづれかを選択し得る様になつてゐる場合ミがある。前者の方が勿論古い。又、皮籠ミする話もある。

一〇 軽い葛籠から出て來る寶物に就いては、金銀や色々結構な物、寶珠や金銀、金銀珠玉卷絹、七種の寶ミ綾錦、其の他色々に記されてゐる。古くは金銀が主であらうが、後には打出の小槌・隱蓑・隱笠・七寶・寶珠の玉等の所謂寶物が主になつてゐる。

一一 重い葛籠から出る物は古くは蟲類であつて、「腰折雀」から傳はつた處であるが、それが後には化物に變化する。化物の行動は復讐の變形である。即ち糊を嘗めて舌を切られたのであるから、復讐ミして何處かを嘗めてゐる。婆さんの頭を嘗めるミか、頭を銜^{クハ}へたり尻を嘗めたりするミか、又喰ひつくものなごみもある。

「なめ殺すぞ」。

ミ化物が言つて大きな舌で婆さんを嘗めて居る圖もある。「竹の栖物語」の雀の雛の化物は、手に鋏を持ち、長い舌を火焰の如くに出し、婆さんの舌でも切る様な態度をしてゐる。これ等には童話發生の折の素朴な復讐心理ミ、兒童の心に適合する心憎さが認められる。

一二 外題に就いては七月號に述べた。

「舌切雀」の依據に就いては古來より多くの説が行はれてゐる。其の最初に見るべきは「桃太郎物語」(讀本、寶曆二年の序)にこれを「搜神記」に關係つけた記事である。曲亭馬琴は「燕石雜志」(馬琴の隨筆)中に同様に「搜神記」に觸れてゐ、これを「舌切雀」の根元と見てゐる。

楊寶が九歳の時に、華陰山へ行つて一羽の黄雀を見つけた。雀は鴟鼻フクロウに襲はれて地上に落ち、蟻に一杯たかられて苦しんでゐた。楊寶は憐んで助けて歸り、箱に入れ、黃花を採つて百日ばかり飼養した。するに羽根も見事に生えた。或夜十二時頃に楊寶が書を読んでゐるに、黄色の衣を身につけ着た童子が來て、楊寶に御辭儀をし、

「私は王母の使でございます。貴君に助けられて誠に有難い事です。今から南海に使に行かうと申してゐます。歸つて來る事は中々むづかしいので、白い環タマキを四枚差上げます。貴君の御子孫は、身が潔白で三公の位に昇られませう」と言つた。果して其の通りであつた。

右の「搜神記」に據つたことする馬琴の説は、漢籍尊重、支那尊重の彼の立場が根柢となつてゐる。直に従ひ得るものではない。又、朝鮮の没夫興夫ムツケツツの話や、蒙古童話等とも類似があるが、それは單なる類似で、これ等の物を原據として作られたとは思はれない。寧ろ國民性が何時かはなしに語り纏めたものであらう。物羨みの失敗譚である「雀恩に報ゆる事」が核心となつて語り傳へられてゐるうちに、民族的の感情や意志や想像力、別して語り手の心理聞き手の心が各方面から作用し、何時しか斯うした形態を作つたものであらう。この意味に於ける原據としては「宇治拾遺物語」を擧げざるを得ない。「宇治拾遺物語」に「搜神記」その關係に至つては未だ何も定める事が出来ない。

いづれにせよ、原據と思はれる話、最初に完成したと考へられる話に、今日の「舌切雀」を比較する時は、あつばれの大わか竹ぞ見ぬうちに

の一句が強く心に響いて来る。(完)

附言 國文學上の諸作品を読む際に、童話方面の史料に出會ふ時は、それを丹念に蒐集して置きました。それ等の史料が本論文の基礎となつてゐます。私は記録された童話を集め、確實な文獻によつて、一步一步過去に溯り、溯り得た其の時代から、説話の依據をも展開をも考察すべきものと思つて居ります。現在行はれてゐる話を其のまゝ、支那の文獻や、朝鮮・臺灣・滿洲・南洋諸島・印度なごの諸説話と比較し、少しの類似點があれば、直に其の影響であるなごゝ言ふ童話研究家が多いのには驚かされます。讀者諸賢には御所藏或は御存じの史料が、おありの事と思はれます。さうぞ淀橋區西落合町二の三三四小池宛に御示教を願ひます。

本論文は今年三男が誕生いたしましたので、親心から特に稿したものであります。

歐米幼兒教育視察記 (二)

フレイベル館副社長
法學士、文學士 高市慶雄

私のコースの概略

世界教育會議終了後、暑い時候でありましたので、私は單身北に向ひ、スコットランドのエジンバラより、北海を渡りノルウェーのベルゲン港に上陸、フィヨルドの奇勝を探り、オスロを経てスエーデンのストックホルムに出で、水上飛行機にて、有名なる多島灣の上空を翔^{かけ}り、フィンランドのヘルシンキに着きました。この國は、圖らずも今度次回オリンピック開催地の競争候補として我國と對立し、今夏新聞紙上を賑はした事は皆様も御記憶の處と思ひますが、元來東洋民族にて我國に頗る好意を寄せて居るのみならず、對露關係から政治的にも利害相通するものあり、其の上本邦人の渡來する事極めて稀有の由にて、私は其の官民から思ひ掛けない歡待を受け、施政、經濟、教育の實際を具に視察する便宜を供されました。また此の地の駐劄公使市河氏はこれ亦稀に見る懇切周到の士で、シベリヤ以來長途の勞を憐^れう意味にて、首都から五十哩北方のオンメラ湖畔のさゝやかな料亭に私を招じ、一夕の宴を催されました。それはカラツミ晴れ渡つた初秋の空でした。此の國に滯留の全同胞に私、都合五人水入らずの楽しい會合でありました。湖上に輕舟を浮べて絲を垂れ、ツウスラミカラヴィントラスクミかいふ我々には珍らしい魚を釣つて、天ブラ風に料理してそのまゝ食膳に上して貰ひました。日本から送つて來た種で作つたさいふ葱、新菊、牛蒡、人參等がスキヤキ材料として現はれ、遠來の孤客をアツミ驚かせました。世界のはしの様に思つて居つたこの北の國で、然も人里離れた此の田舎で、こんな御馳走に與らうとは夢にも想ひ設けませんでした。この半日の清遊で、シベリヤ以來の疲勞が一時に解^きれた様に感じました。偏陬の國を訪るゝ事

の勞苦を償つてなほ餘ある幸福で御座いました。

偏陬に沈滞は自ら別個の意味であります。事實に於て、世界中最も新しい建築と都市計畫との最も活潑に行はれてる所は、滿洲の新京と此のヘルシンキ市である事を私は發見したのであります。世界大戦後の新興國家なるフィンランドは、先づその首府の一角に素晴らしきモダン、ブロックを現出させて居ります。超モダンの建築は續々完成へ進められて居ります。こんなに活氣のある都市を歐洲大陸に於ては勿論、アメリカに於ても、私は他に見るを得なかつたのであります。残念な事に夏季休暇中でありましたので、教育の實際を參觀し得なかつたのですが、校舎、園舎の諸設備の如き先進國にも餘り類のない新式且つ壯麗なものであります。

私は再び水、陸兩様の飛行機に身を託し、エストニアのタリン、ラトヴィヤのリガ、リスアニアのカウナス、ダンチヒ等バルチック海諸小國(何れも大戦後の新興國家)を飛訪しつゝ、東プロイセンのケーニヒスベルグに到着致しました。ここに大哲カントの墓に詣で、またウンツェルといふ獨逸第一の書肆を訪れて、兼ねて待望の色々の文獻を心ゆく迄涉獵しました。そして再びベルリン市に飛來したのは秋漸く酣ならん頃でありました。

心せくまゝに、伯林に足を停むる事僅に數日、ミュンヘンよりスパスに入り、チロール山中を横斷してウキーンに出でハンガリーのブタベストに向ひました。

此の國も大戦後獨立した新興國家の一つで、百萬の國都ブタベストはダニューブ河に跨る景勝の地を占め、溫泉氣分横溢、且つ新興清新の意氣に燃えて居ります。ダニューブといへば、ウキーンもその河畔に在るのですが、ブタベスト迄下つて來て初めて詩趣を覺えます。日本の川は、奥利根、奥多摩等といつて、上流の方がよい事になつてゐますが、あちらの河は、悠揚迫らず廣々として水を一杯に湛へた下流の方が風趣があるのです。名高い「ダニューブの漣」の歌曲を吟み、

川魚に舌鼓を打ちつゝ、遙に想を故國の空に馳せた事でありました。

此の國はまた東洋人種で、我國を宗主國として尊敬し、我々日本人を歓迎すること、これ亦フィンランドに勝ることも劣る事はありません。トビックの數々は誌し盡せぬ程にありますが、一切を割愛させて頂きます。(フレールベル館発行の「ツバメノウウチ」誌上に、トビックの一部分を連載する豫定故御参照下さいませれば幸甚です)。

こゝからチェッコスロヴァキアのブラーグ、ザクゼンのドレスデンを経て三度伯林に歸り、フレールベル先生の遺蹟探訪の爲めに獨逸の田舎を歴遊後、南歐の旅に出立したのは、十二月の初でありました。ミュンヘンからチロールの嶮を縦斷して、トレント、ベニス、フロレンス、ローマ、ナポリからローマに引返し、ピサ、ミラノ、リヴィエラ諸邑、マルセイユを経て巴里に出で、四度伯林の土を踏み、靜養旁々數ヶ月をこゝに送りました。それからハンブルグより乗船、途中ロンドンに中憩、大西洋を横斷してニューヨークに着き、シカゴよりサンタ・フェー線に據りロスアンゼルスに出で、桑港から布哇經由、横濱に歸着、これが私の滿一ヶ年のコースの概略であります。此の間經由國數二十三、訪問の都市八十餘、其の各々で幼稚園又は託兒所を専門に見學して参つたのでありますが、その中、最も特色があり、對照の著しいと思ふ幼稚園數個を擧げて、御参考に供し度いと思ひます。

ローマのモンテッソリー幼稚園

私が此の幼稚園を訪れたのは昨年十二月初頭で、前後三回に亙り參觀しました。

この幼稚園はチヘル河彼岸の天使通り二十二番地 *Viale Angelico 22* に在り、*Opera di Metodo Montessori* といふのが本名であります。只今では國立となつて居る關係上、參觀手續も仲々面倒で、先づ在伊帝國大使館の紹介により、伊太利文部省に、普通學務局長ドクトル・キヤロモンテ博士を訪問、參觀の希望と趣旨を申述べました處、自分の權限に行かぬ



影近の史女ーリソッテンモ



の中導指くし親を兒幼
史女ーリソッテンモ

22, Barcellona の由——待望の女史に面接を得なかつたのは遺憾でしたが、女史の高弟文學博士マッツォーニ女史 Prof.

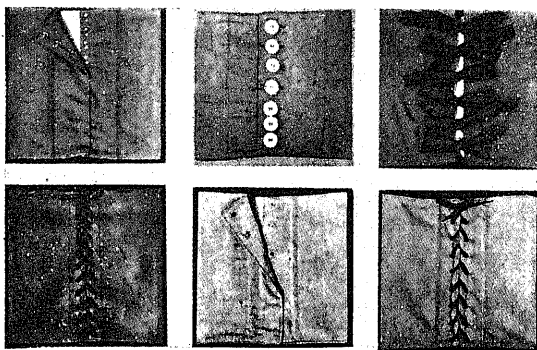
ssa Dr. ssa Mazzoni に迎へられ、限なく園内を視察する事が出来ました。女史は三十歳前後、見るからスッキリ上品な、頗るフランス語に堪能なる學者タイプの先生であります。園舎や設備の點では、歐洲隨一は申さず共、歐洲第一流の立派なもので、鐵骨鐵筋コンクリート建であります。ローマの上流家庭の子女約八十名を保育致して居ります。今から約十年程前に此の國を訪れたさいふ人のお話を伺つて見ますと、その當時モンテッソリー女史の新方法は未だ社會に認めらるゝに至らず、ナボリの貧民窟の幼稚園でその方法を實行してゐる所がある相ださいふ

さいふので、大臣室に同道、一時間近くも待つて、ムッソリーニの署名ある許可證を得て、漸く參觀に赴く事が出来ました。折しも伊太利は對エチオピア戰爭の最中であつた爲めこはいへ、ム首相の獨裁こいふか、一元的支配こいふか、如何に徹底せるかに驚嘆しました。さて目指すモンテッソリー幼稚園に参りますと、創始者モ女史は、前述の如く、或る事情の爲めに目下動亂の巷なるスペインのバルセローナ市に移住の後で——モ女史の現住所は、バルセローナ市ガウヂューセル通り二

十二、モンテッソリー學園内 Opera Montessori, Calle Gauduser



(場の洗皿)練訓的庭家の園稚幼ーリソッテモ



(方平櫃五十約)々色の具用練訓肉筋頭指

位の事であつた由であります。然るにファッションヨ黨の勃興後、門氏の新式方法は果然ムツソリーニ首相の認むる所となりローマ市の目抜の場所にか様な立派な園舎が新築せられ、次いで國立に移されて、今日では、伊太利の誇りの一つに數へられて居るのであります。

さて此の幼稚園の根本思想は「科學的」さいふ事に在る相で、その方法 Method は、全面的にモンテッソリーの方法を採用、中にも感覺的訓練操作には、最も重きを置いて居ります。園長マツツォーニ女史の説明によれば、幼児の一擧手、

一投足の操作すら、科學的根據に基かぬものはないのだ相であります。大廣間で、一人々々別々の椅子ミテールブルが、プロゼクトメソド式に排列せられて居る中で、全園児が、十數名の保姆の各個的指導に従ひつゝ非常に大型のモンテッソリー用具を、盛んに——ミ申すより他に言葉がありません實に盛んに——使用して居る有様は一種の壯觀であります。私共は、廻廊風にしつらへられた二階から、一眼に見下す事が出来る様になつて居ります。

また、遊戲の如きも、割線上を踏みはづ



(習練覺觸)りぐさ手の地布でしくか目



(習練覺感)る知な形でりぐさ手



習練の定勤で板數計

さぬ様歩かしつゝ、之をなす仕組で、中にも、硝子のコップに水を入れて、滾さぬ様に劃線上を歩かせるこいふ操作は、他では殆んぎ見かけない事であります。或は家庭的訓練に申しまして、お掃除、ベッドの片附、洗面に嗽ぎ、皿洗ひ、お食事作法等を、夫々別々の美しい部屋で、頗るお行儀正しく、また形式を重んじつゝ、訓練させて居ります。

此の幼稚園の「科學的」操作は洵に感嘆の至りであります、餘りに科學に捉はれ過ぎてゐる傾向はないか、人生には「科學以上」の事もあるのではないか、また方法 Method に捉はれ過ぎてゐる結果、子供が稍々イヂけてゐる様にも感じました。中にも、目かくしをして布地を探つたり(感覺練習)、音を聞き分けたり(聽覺練習)等の操作を、メンタルテストの時許りでなく、毎日く繰返し行はせる事の如きは、果して健全なる保育方法に申し得べきや疑問であります。(但し、此處

で使はれてゐるモンテッソリー用具は、我國現行のものゝ約五倍位大型であります。此の點は結構な事で、我國に於て改良の餘地あるものを感じました)。

此の幼稚園におきまして、モンテッソリー用具の使用方法を徹底的に見學するを得た事は幸でありましたが、過ぎたるは及ばざるが如しで科學の中毒的現象をも見逃し得ないと思考致します。事實に於て、子供は稍々運動不足で、日光に新鮮なる戸外の空氣に觸るゝこいふ事が少



るえ覺を字綴てつよに用使的具玩の母字



字文の初最たい書に目日十二後園入兒男の歳五満



習練覺視で卷絲色の絲毛.

く、健康増進といふ點に於て、遺憾の點なしは申されません(此の幼稚園の保育實況を、活動寫眞に撮影して参りましたので、講習會席上に於て上映寫寫して、参考に供しました)。

私は二週間のローマ市に滞在し、三回に亘り門氏國立幼稚園を參觀の合間に、ヴァチカン博物館其他の博物館に、古代及びルネッサンスの美術を探り、また千數百年の傳統を誇る、ローマンカトリック教會の本山サンピエトロ寺を訪れ教主ローマ法皇ピオ第十一世に特別謁見の光榮を擔ひました。

兒童心理學文獻抄 二

牛 島 義 友

幼兒の性格の觀察

幼稚園保育の主眼が性情の涵養にあることは申すまでもない。知的機能を陶冶する事も勿論必要であり、基本的な觀察力ミか判斷力を啓發する事は幼稚園に與へられた使命ではあるが、併しそれよりも徳器を磨きやがて完全なる人格にまで成就さす基を作るべきである。性情ミか性格ミかミ云ふものは言葉は簡單であるがその指してゐるものはいかじ單純なものではない。吾々は善い性質の子ミか悪い性質の子供ミ云ふ様に總括的な判斷をする事に慣れて居り、従つて善い子供にするミ云ふ事も性質を變へれば一舉にして出來上るものゝ様に考へる傾向がある。併し性格ミはそんなに簡單なものでなく、それには非常に多くの方面があ

る。人格に於て統一されてゐるミは云へ、その具體的に現はれる面は千態萬様である。此の具體的な多様な性格の現はれを通して吾々は性情を涵養して行かねばならない。

此の教育の爲には先づ子供の性格を正しく觀察する事が基調ミなる。正しい觀察結果に基づいてその足らざる補ひ、優れたる所を伸ばさねばならない。或は此の教育の爲に取つた手段が果して有効であつたか否かミ云ふ點を調べる爲には、即ち訓育効果の測定をなす爲には、標準化された觀察が必要である。即ち觀察が主要な點を網羅し、無益な重複をなさず、簡にして要を得たものであり、而も觀察結果が量的に現はさるゝものが必要である。

斯る標準化された性格の觀察法に就て少しく詳述しやう。

斯る觀察法としては既に淡路圓治郎氏の「幼児性行評定尺度」昭和九年、フレール館發行があり、之は凡ゆる意味に於て理想に近いものである。即ち觀察項目が比較的少數で而も一義的判斷が出来、觀察の結果から直ぐ保育の方針が樹ち、而も保育の効果が簡單に測定出来る。故に此の觀察票を使用される事をお奨めする。

併し斯る事に興味を持ち進んで研究しやうとされる方の参考の爲に二、三外國に於て使用されてゐる觀察票を紹介する。

メリルパーマー案 (C. A. Wilson etc: The Merrill-Polmer Standards of Physical and Mental Growth 1930)

メリル・パーマー・スクールはアメリカのミシガン州にある最も完備したナーズスライ・スクールで、保育と科學的研究を併行して居り、幼児の知能検査法としても特色ある Merrill-Polmer 智能検査法を作成して居る。性格觀察に關係しては M. Yeoman, M. Berz 女史等によつて次の如き案が樹てられ、數年間に互つて此の學校に適應して標準化して居る。

此の幼児人格評定票は心的活力、效用性、情緒の統御、社會的順應性、作業の器用さの五つの方面に分けて觀察する。此の五つの方面に各二十宛の具體的な觀察問題が含まれる。此の中にはいつも同一性質に就て積極的方面を見るものと消極的方面を見るものがある。

一人の子供に就て是等の諸點に就て觀察しその通りであれば十、然らざれば一をつける。此の中、積極的な答をしたもの(次の表の問題の上に記された符號と一致するもの)の數を數へて採點する。

I 心的活力

- (十) 身體的調節が巧み、よく調整。
- (一) 繊弱。
- (十) 一つの計畫に取かゝる時元氣で精力的。
- (十) 丈夫、強壯
- (一) 身體的運動が拙ない、調整惡し。
- (一) 仕事をするに元氣なし、大人しい。
- (十) 獨立的(年の割に)。
- (一) のろくさい、精力なし。
- (一) 聲に生氣なし。
- (十) 冒險的(未知のものに對し)
- (十) 仕事を他の人と共にす。

- (一) 依頼的、人に助けを求む。
- (十) 身體的に頑丈、元氣。
- (一) 疲れ易い。
- (一) 大てい自分では何もせず立つて他人を見てゐる。
- (一) 障礙が起ると一つの事を完成出来ない。
- (一) 細心すぎる、冒險的でなくはじめの事をするのを恐れる。

- (十) 仕事が困難でもやりとげる。
- (十) 聲は生き／＼してゐる。
- (十) つかれ易くない。

II 效用性

- (十) 敏活に周圍に反應する。
- (一) 集中出来ない。
- (一) 他の子供の反應の模倣をして、獨創的でない。
- (十) 記憶力(歌、遊戲等の)平均以上
- (一) 周圍の變化に氣付くのが遅い。
- (十) 仕事によく集中する。
- (一) 記憶力(歌、遊戲等の)平均以下。
- (十) 獨創的反應。
- (一) 試行錯誤法でやる(計劃的でない)。
- (十) 想像力に富む。
- (十) 感覺の變化に鋭敏。
- (一) 六づかしい状態を切り抜けられない。

III 情緒統御

- (一) 非想像的。
 - (十) 好奇心強く質問多し。
 - (一) 心的不活潑、周圍に不反應。
 - (十) 新しい場面に際し過去の經驗を利用して行く。
 - (十) 年の割に巧く自分の思ひをのべる。
 - (十) 臨機應變。
 - (一) 好奇心なく聞きたがらない。
 - (一) 年の割に言葉下手。
- ### III 情緒統御
- (十) 忍耐強し。
 - (十) 感情的反應充分に成長す(その年齢として)。
 - (十) 自分の活動に自足し没頭する。
 - (十) 自覺的でなし。
 - (一) 忍耐心なし。
 - (一) 情緒的反應が幼稚(その年齢として)。
 - (十) 云ひ付けられた時その通りする。
 - (一) 落付かない、自分の活動に不満足。
 - (十) 失敗するとやゝいら立つがすぐ直る。
 - (一) 引込み勝、後の方に居るのを好む。
 - (十) 氣分にむらなし。
 - (一) 注目を集めやうと積極的に努める。
 - (一) 望みの目的を遂げる事が出来ないと劇しくいら立つ。
 - (十) 自發的、主張的、ほしい物をねだる。

(一) よく狼敗す、不快なこと、刺戟的な事によりりすぐ取亂す。

(一) 劇し易し、興奮性。

(十) 人の注意や自分の力を適當に評價する。

(一) 何か云ひ付けられた時は命令してゐる人から避ける。

(十) めつたに混亂せず、氣分の劇變は少ない。

IV 社會的順應性

(十) 集團的活動に喜んで加はる。

(十) 人の注意を惹かうとせず。

(一) 新しい經驗にすぐに適應せず。

(一) 友に人氣なし。

(一) 注意を惹かうとする。

(十) 新しい社會的状況にすぐ適應する。

(一) 當てにならぬ、信用出来ない。

(十) 子供等に入氣あり。

(一) 自分の權利を護らない。

(十) 同年又年上の子供をひきゐて行く。

(十) 友達に親切。

(十) 他の子供と遊ぶ。

(十) 信頼出来る、信用ある。

(一) 權威に反撥する。

(十) 自己の權利を護る。

(一) 友達に不親切。

(十) 權威に適應する。

(一) 一人で遊ぶ。

(一) 集團の仲間に入るのを好まない。

(一) 同年又は年上の子について行く。

V 作業の器用さ

(十) 玩具を巧みに扱ふ。

(一) 破壊的、仕事を滅茶苦茶にして喜ぶ。

(一) 不精。

(十) 時間を有効に用ひる。

(十) 調度を扱ふに注意深い。

(十) 目的。

(十) 遊戯に獨創的。

(一) 時間を無駄に使ふ。

(十) 勤勉。

(十) 建設的、物を組立て、喜ぶ。

(一) 遊びに非獨創的。

(一) 活動に目的なし。

(一) 材料を不注意に扱ふ。

(十) 仕事を完成する迄續ける。

(十) 仕事に集中する。

(十) 遊ぶのに色々の材料を用ひる。

(一) 取かゝつてゐる仕事から直ぐ心をそらす。

(一) 直ぐ中止し永續させず。

- (一) 玩具の種類の範圍せまし。
 (二) 調度を扱ふのに不器用。

以上の觀察票に基づいて得點を數へて見る。中數を取る
 心動的活力十五・四、效用性十五・五、情緒の統御十三・八、
 社會的順應性十四、作業の器用さ十五・二、總點七十二・三
 となつてゐる。之はアメリカの子供の結果である故にその
 まゝ日本に適應する事は出来ないが、日本に於ても恐らく
 之に近い價が得られる事と思ふ。

フリツヂェス案(K. M. Banham Bridges: The Social
 and Emotional Development of the Pre-school Child,
 1931)

彼は學齡前兒童の社會的並びに情緒的發達に就て深い研
 究をなし、幼兒を觀察する適當な尺度として詳細な包括的
 な觀察票を樹てゐる。先づ社會性發達の尺度としては子
 供同志の關係、大人との關係に別けて觀察し、情緒性の發
 達尺度としては一、苦痛ミ涕泣、二、恐怖ミ臆病、三、怒
 ミ苦痛、四、喜ミ感激、五、興奮ミ寢小便、六、惡癖ミ言語
 の異常、の項目に別けてそれ／＼十個前後の問題を排列し

て居る。併し之は餘りに大きすぎるので又別に五十問題か
 ら成る簡單な性格評定票を樹てゐる。之は社會的方面、
 人格的方面、情緒、の三方面から幼兒を觀察する事になつ
 て居る。此の方を次に摘録しやう。

學齡前兒童の性格評定票

社會的

- 1、他人と遊ぶか一人で遊ぶか
- 2、他人にかまばないか邪覺をするか
- 3、他人におだやかか亂暴か
- 4、他人を助けるか助けられないか
- 5、秩序をまもるか混亂を起すか
- 6、他人のする事を學ぶか無視するか
- 7、他の子供を指導するかついて行くか
- 8、自分の權利を主張するか否か
- 9、共通のか否か
- 10、威張らないか否か
- 11、我まゝか否か
- 12、同情的か否か
- 13、感情的か否か
- 14、毎日の仕事に共同のか否か
- 15、ひどく話ずきか否か
- 16、ひどく黙りやか否か

- 17、遠慮深いか無遠慮か
- 18、注意を求めないか否か
- 19、權威に従ふか否か
- 20、從順的か否か
- 21、批評に敏感か否か
- 22、大人のゐない時に忠實か否か

人格的

- 23、獨立的か否か
 - 24、自信があるか否か
 - 25、勢力的か、ぼんやりしてゐるか
 - 26、靜肅かやかましいか
 - 27、仕事が早いかおそいか
 - 28、執着のか早く断念するか
 - 29、注意深いか不注意か
 - 30、目的の無目的か
 - 31、集中的か分散的か
 - 32、きつたがるか無頓着か
 - 33、構成的か破壊的か
 - 34、遊戲において獨創的か否か
 - 35、空想的か
- 情緒的
- 36、愉快か憂鬱か
 - 37、氣分が變り易いか否か

- 38、自發的か消極的か
- 39、自己意識的か否か
- 40、神經質か否か
- 41、嘘をつくか否か
- 42、劇し易いか否か
- 43、涙をこらへるか、すぐ泣くか
- 44、勇敢か臆病か
- 45、見られても餘り妨げられないか否か
- 46、熟慮的か衝動的か
- 47、かんじやくか否か
- 48、すれるか否か
- 49、忍耐的か否か
- 50、許すか復讐するか

同じ様な表を澤山掲げるのは讀者に迷惑であるかも知れないが、もう一つ丈カリフォルニア大學の兒童研究所から出てゐるナースリー・スクールの爲の案を紹介しやう。

カリフォルニア案 (H. S. Conrad : The California Behavior Inventory for Nursery School Children, 1933)

此の案では子供の性質を評定する場合に特別な注意を要してゐる。即ち一人の子供を始めから終り迄觀察せずに一つの觀察項目に就て全部の子供を先づ判断する。勿論年齢を考慮した上でその問題に就て各人の占める位置を定め

それがすむと第二の觀察項目に移る。斯るやり方は子供を客觀的に公平に觀察するのに都合がよい。又判斷は七段階に別けて居る。即ち極端にその性質を持つてゐる者は一、著しい者は二、平均以上なら三、普通は四、平均以下なら五、著しく缺けてゐる者は六、極端に缺けてゐる者は七、云ふ工合に段階をつけて詳細に觀察する様になつてゐる又判斷者の主觀に影響されない様に各觀察項目毎に極端にその性質を持つた例、普通の例、極端に缺けてゐる例を具體的に掲げてゐる、此の例を見乍ら判斷して行くのである。

觀察項目は全部で二百三十一個の膨大な包括的なものであるが、此の全部の觀察が出来ない時の爲には六十一の項目をその中から選り出してゐる。此の分丈を次に簡單に項目丈を擧げやう。併し最初の二つ丈は詳細に譯述して此の觀察票の口を例示する事とする。

I 大きな活動(戸外でする様な運動)

a、大きな活動に費す時間の量

1の例、大部分の時間を大きな運動に費す。きは立つて活動的。

4の例、普通なみの時間を大きな運動に費す。

7の例、不活動、靜的、殆ど大きな活動をしない。

b、活動の氣力

1の例、力強く精力的、元氣横溢、早く走つたり木を強く挽く等。

4の例、中位の元氣さ

7の例、動作に元氣がない。遊びや仕事も穩やかな靜的なもの。

II 一般の情緒的特徴

a、情緒の現はれ方。b、その敏感さと度合。c、泣くのをこらへるか。d、情緒的反應の持續時間。

III 要求に對する反應

a、社會的壓迫への反應。b、困難に對する反應。c、失敗挫折に對する反應、その中でも無生物による妨害、同年輩の子供による妨害、大人による妨害に分けて觀察する。

d、競争心の有無。e、いぢめられた時の反應。

IV 特殊な性質 A

a、氣質が熱狂的。b、快活性。c、自己中心性(我儘、不親切、協同作業の三方面より見る)

V 特殊な性質 B

a、權利に對する態度。b、大人からの被暗示性。c、外か

らの暗示と指示を求める。d、獨立心。e、大人の注意を惹かうとする。f、順應性。

VI 特殊性質 C

a、友情。b、友情の深さ。c、愛情を求める。d、人氣の有無。e、説得の巧みさ。f、集團の指導者とされる。g 集團内で専横。

VII 特殊性質 D

a、神經質的性癖。b、外見に對する虚榮。c、大人に對する癩癖。d、すれる。e、からかふ。f、威張る。g、好戰的。h、所有欲。i、心配性。j、用心深い。

VIII 特殊性質 E

a、義務に對する責任感。b、正直。c、他人の所有權を認める。d、樂天的。e、滑稽な事に笑ふ。

IX 興味

a、おしゃべり。b、傍觀的。c、仕事の理想が高い。d、集中するか。e、計畫的。f、野心。g、好奇心。h、獨創的。i、空想性。

X 表情

a、表情の興へる快感。

XI 聲

a、云ひぶりが表現的。

羽蟲の舞

蟲むし、蟲、蟲、蟲、蟲

蟲、蟲、蟲、蟲、蟲

蟲、蟲、蟲、蟲、蟲

月の出

お月さま

ここから來たの、

お月さま

ここへ行くの、

お月さま

小さくなっちゃった

(二歳—三歳の幼兒の詩)

『系統的保育案の實際』解説（七）

生活訓練	倉橋惣三
誘導保育	菊池ふじの
唱歌遊戯	村上露子の
談話	新庄よしこ
觀察	小島光子
手技	及川ふみ

『系統的保育案の實際』は、東京女子高等師範學校附屬幼稚園の編になり、日本幼稚園協會から發行せられてゐる。

昨年七月以來、既に多大の部數が、全國保育界に普遍し、熱心なる保姆諸君によつて、研究せられ又實施せられてゐる。しかも此の保育案は、舊來の諸保育案、殊に單なる羅列的保育要目と全く異なり、幼稚園保育の本義に立脚して、幼児の生活に出發し、生活に歸着する、生活系統としての新らしい保育案であるところから、その實施に於ても新らしい研究を必要とする。又、本保育案の各項に就て、尙ほ進んで詳細なる解説を求められることが尠くない。

本稿は、それ等の要求に對して同人相促し、分擔して各項の解説を試みたものである。説いて詳細を盡さないのは素より、私案私説、極めて熟せざるところが多いのを恐れる。たゞ、保育案の表示のみにては一層盡さざるを思ひ、これが理解を助け、實施上の便を加へ得んことを希ふてゐるのである。

尙ほ念のため附言するが、本保育案の本質的中心をなすものは、各項の内容よりも、保育案そのものの立て方にある。内容の選擇排列も亦、一々意を用ひたところであるが、保育案としての根本の建て前を離れては、保育としての活きたる意味が失はれる。従つて、『系統的保育案の實際』を絶えず傍に置かれることなくしては、本解説は正しき用をなすことを得ないであらう。

年少組、第二保育期

— 満四歳、満五歳 —

生活訓練

第十二週

第九週から第十一週まで空欄になつてゐるので、解説子には手数が省けて有り難い。訓練が休みで子ぎもらも有り難いでせうなんていふのは誰れですか。そんな考へ違ひを大人の方でもつてゐるからいけないんです。訓練が休みで助かるなんていふのは不良學生のいふことで、幼児にそんな不都合な考へは起らない。若し起つたしたら、その訓練がよつばぎ不都合な訓練なのである。いつもいふやうに生活訓練はそんな苦しいことでも、重壓を感ずることでもない。況んや、保育案が空欄になつてゐるからつて、訓練

そのものが休止の譯ではない。幼児はそれ々の生活の中で、生活そのものによつて、生活そのものを絶えず訓練されてゐるのである。——但し、空欄のお蔭で解説子の助かることだけは確である。呵々。

さて、その第十二週も、別段解説を要しない。辨當あたためは、各園でそれ々異つた設備方法によるであらうから一様に言へない。暖房装置にさはらぬことゝいふのも、いろいろの暖房装置があるから一概にはいへない。たゞ幼稚園の各仕度ぐが、いろいろの心づかひを伴ふものであることを忘れなければよからう。

誘導保育

第八週

おもちゃ屋つゞき

ピエロ人形(模造紙、畫用紙)

第九週

象(畫用紙)

鷺鳥(畫用紙)

刀(白ボール)

第十週

ふら〜人形(模造紙、畫用紙)

うさぎ(畫用紙)

人形の着もの(ラシヤ紙、千代紙)

第十一週

さいころ(粘土)

風車(畫用紙、模造紙)

第十二週

正札(畫用紙)

年少組第二學期であるので、一錢、五錢、十錢位の數を
目指して見る。

お金(ボール紙)

自分が求める品物の値より、澤山のお金を渡さうが少く
渡さうが、又は、お釣が来やうと来なからうと、そんな事
はさうでもないと言つた様に、實數には無關心だ。子供等
はたゞお金と言ふものを渡して、その代りに品物を貰ひ
さへすれば満足しきつてる様子に見られる。で、お店の名
のつくものには、是非お金の製作が必要になつて来る。

看板

おもちゃ屋と言ふ看板が、店頭飾られて、初めてぎつ
しりこ落ちついて来る。看板の字は、子供の筆によつて、
又は子供等の手にて成る切紙等で現はされるのがよろしか
らう。看板の周圍の趣向なさも、幼児達の合作であつて欲

しいものである。

玩具店完成

これで漸く豫期したゞけの玩具が出来、看板もつけられて、一通りお店は完成したわけである。もつミ品物を豊富にしてお店を擴張する事も出来るし、幼稚園のその折の都合をも斟酌して適當の措置をみるのがいゝ。完成したら、四五日そのまゝ飾つて置いて、子供も先生も共に完成のよろこびを味はひその心に浸るのがいゝ。

賣り買い遊び

扱て、賣り買い遊びであるが、期待效果欄にある様に「賣り買い遊びに依る社會生活興味」の外に、心ひそかに「簡單なる數の計算」ミ言ふ事も附け加へて見た。併しいざ開店ミなるミ、もう嬉しくて嬉しくて、賣手も買手も足は地についてゐない。それに今は年少組第二學期であるので、以下の數の計算がよく出来ないのが大多數である。嬉しくて心も空ミ云ふ有様なミころへ、その上大勢殺到する只中で、さうしてまだあやふやな頭で、お釣の勘定等出来るものか、實際開店の賑々しい場面に直面して見れば、最初抱

いた期待「簡單なる數の計算」てふ一項は、躊躇するミころもなく引つこめずに居られなくなつてしまつた。その次に年長組第三學期にこの賣り買い遊びを催した時であつた。小學校の入學試験も済んだ後だつたしするので、大抵の子供は十以下の數の計算が出来る時であつた。前々からその事を言ひ合めて、お金等も一錢銅貨を澤山ミ、五錢白銅も少々入れた。品物の値も、不名譽ながら皆五錢以下の正札をつけておいた。この度こそは、しつかりさやつて、「簡單なる數の計算」なる期待を徹底しやうミ試みた。併しその時になつて見るミ、あれ程言つて、よくわかつてくれてたのにミ思ふのに、そんな數の計算等はもうすつかり忘れてしまつて、はやる心のまゝに、品物目がけて殺到するのである。そして品物を貰ふ爲には、お金ミ名のつくものを渡さねば貰へないからミ云つた調子に、お金を拂ふのである。何錢のものだから幾らを仕拂ふのだミ言ふ様な考はてんで持つてゐない様だ。制限してお金を持たせたのに、お金が無くなればねだつたり、床に落ちてゐるのを拾つたり、果ては、ズボンのポケットに忍ばせておいた三百圓ミ言ふ

おもちやお札を出して、品物を貰はふき一生懸命になつて、見てゐる大人達を笑ひこけさせた事であつた。この時
もまた、見事に「簡單なる數の計算」の一項は敗退してしまつたわけだつた。あのはやる心に之を求めれば、興味を殺

唱歌遊戯

第九週

唱歌 三回

ウサギ(エホンシヤウカ)

みんなの知つてゐる兎こ龜のお話を思ひ出して歌ふ。

遊戯 三回

ウサギ(記事参照)

第十週

唱歌 二回

今までのおさらひ。一人づゝみんなの子供に歌はせる。

終りまで靜かに聴く態度を養ひたい。

遊戯 二回

いでしまふだらうし、之はこの案には期待し得ないものであらうか？、外の機會にだつて是位の數の計算の出来る機會は始終あるし、之はこの案に求めないがいゝのであらうか。

あなたのまね。(記事参照)

最初リーダーを定めるには嫌がらないでぎんぐ出来る子供を指名するこよい。最初の子供がいや云つたり、ぐづぐづしてゐるこ他の子供にも傳染してしまつて、いやぐ云つて出来ない事があるから。

第十一週

唱歌 二回

木の葉(童話唱歌名曲全集)

一番のチラ／＼二番のヒラ／＼をよく間違つて歌ひ

易いから、黑板に書いた歌詞を幾度も讀ませてはつきり覺えてから歌ふ様にする。

お庭の銀杏や楓の葉が、風に吹かれてひらひら舞ふ、又風もないのに一ひら又一ひらミ散る様子を見るミ歌ひたくなる。

遊戯 二回

木の葉(記事参照)

木の葉の散る様子をよく見せて、子供たちに色々表現させて見るのも面白い。

第十二週

唱歌 二回

さんぐりころころ(童謡唱歌名曲全集)

さんぐりは子供たちに親しみ深い。可愛いくて子供の好きな歌。

遊戯 三回

さんぐりころころ(記事参照)

少し複雑した動作であるけれど、案外喜んですぐに出来る。女兒が好んでする。

ウサギ 戸倉ハル氏振付
エホンシヤウカ

準備 圓形を作り二人つゝ組む。

ヒルネシテキテカメサンニ

圓周上に二人つゝ向ひ合つて内ミ外にしやがみ、ねむつてゐる様子をしてゐる。

マケタウサギハドコニキル

腰をかゞめ両手を兎の前肢の様にしお互に左側通行で自分の體の向いた方向に八歩前進する。即ち外側にしやがみだ者は圓の中心に向ひ、内側にゐる者は外の方に向つて進む。最後に遠く二人はなれたその場所でははれ右をしてはなれたまゝの位置で二人向ひ合ふ。

ツキノゴテンニトントンツテ

兩足をそろへ(手は兎の前肢の如くして)四つミび乍ら前進して遠くはなれた二人が近づいてははじめの位置に戻る。

ベツタンオモチヲツイテキル

二人の内の一人がしやがみ兩手で大きい白を作り、一人は立つて杵をふり上げ白の中のお餅をつく。

あなたのまね



あなたのまね 戸倉ヘル氏振付

準備 一列圓形を作り、はじめにリーダーを一人定

めリーダーは圓の中に入つてゐる。

第一小節より第四小節まで

圓周の者は右向けをし圓周に沿つて行進する。リーダー

は圓周の者ミ反對の方向に即ち左向けをして圓の内を圓

周に沿つて行進する。

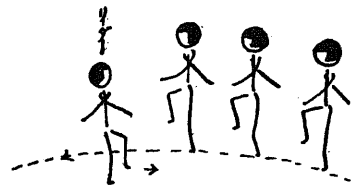
第五小節より第八小節まで

前ミ同じ方向で引つゞきスキップ行進をつゞける。

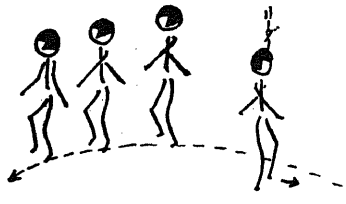
第九小節

あなたのまね

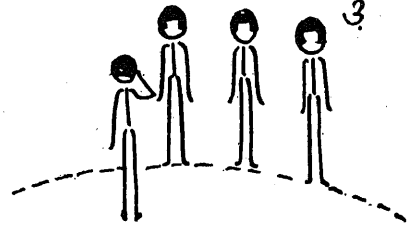
進行 1.



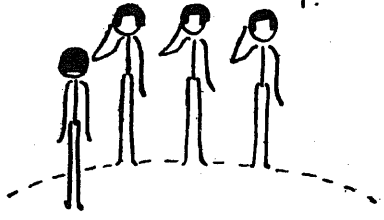
パツキス 2.



3.



4.



皆圓心を向いて止り。

第一音でリーダーが自分の好きな形をする例へば敬禮を

してもよいし、鐵砲をうつ形をしてもよい、靜止の形で

なければならぬ。第二音で圓周の者が、リーダーに同

じ形をする。

次につゞけて曲を弾いてゐる。圓周上の者は行進をはじめ

る。リーダーは圓周上の誰かの所に行き、手招きをして交

代する、するに今度はその招かれた者がリーダーになる。

こうして一回互にリーダーが交代して何回もくりかへして

行ふ。

木の葉

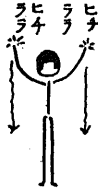
ニヌカヲモゼカ
ヨルチガハノコ



テレカフニヒカ
ヨトガハチオ



ヨトガハチオヨトヨト



前奏

準備 一列圓形を作り内方を向く

木の葉 戸倉ハル氏振付
童謡唱歌名曲全集

體は圓心に向け、兩手は體側におろしたま、顔だけ右斜上をむけて右斜上を見乍ら極く少しだけ前後に四回ふる同時に足も爪先は床につけたま、踵だけ上へ上げたりおろしたり四回する。次に左斜上に顔をむけ右と同じ動作を四回する。

チルヨ

前と同じ位置のまゝで手だけの動作をする先づ右手を人指ゆびだけひろげ他は握つて上へあげつゞいて左手も同様上へあげる。顔は手の方向をみる様にうごかす。

チルヨ

上へあげた兩手を指をひろげひら〜こ〜ごかしながらおろす。

コノハガチルヨ

チルヨチルヨの場合と同じ動作をくりかへす。

カゼモフカヌニコノハガチルヨ

拍手しながら自分の周囲を大きく一周する。この時下に落ちてゐる木の葉を見ながらまはる。

ヒラヒラヒラヒラ

圓心を圍いて立つたまゝ右手を五指をつけて開き左の上の方にあげひらくゝを掌をかはしながら斜におろし次に左手を右上にあげ同様におろす。

ヒラヒラ

兩手を上にあげ一しよにひらくゝさせながらおろす。

トブヨトブヨオチバガトブヨ

右向けをし、兩手は左右にひろげ上下に動かしながら

圓周に沿つてスキップで進む。

カゼニフカレテオチバガトブヨ

止つてやはり兩手を左右にあげ動かしながら自分の周囲を歩いて一まはりする。

チラチラチラチラチラチラ

チラチラチラチラチラチラ

一番のヒラヒラのまゝころこ同じ。

後 奏

一曲に合はせて拍手をする。

さんぐりころころ 童謡唱歌名曲全集

準備 一列圓形を使い、二人づゝ組む。

前 奏

圓心をむいたまゝ兩手を指はくみ合はせる様にして頭の上にのせる。

ドンゲリコロコロ

兩手を頭にのせたまゝ上體を左右右左に横に動かす。

ドンブリ

兩手は頭にのせたまゝ兩足を揃へて一步前にまびこむ

コ

まびこんだ場所にしやがむ。同時に手を下す。

オイケニ

立つて拍手ゆつくり二回。

ハマツテ

つゞけて拍手急いで三回する。

サアタイヘン

兩手を腰に左足を中心として左にクルリまはり最後に右足を一步後におき兩手は掌を開いて肩の高さに肘

をまげてあげ、おそろいた時の様子をする。

ドジヨウガデテキテ

二人づゝ豫め組むでゐた一方をぎじょうとして、ぎじ

ようは、さんぐりの前に出て来て向ひ合ふ。

コンニチハ

ぎじようはおじぎをし、さんぐりは敬禮をする。

ポッチャンイッショニアソヒマセウ

向ひ合つたまゝ両手をさり横に元氣よくふる。

間奏

二人向ひ合つたまゝの位置で両手を頭の上のせる。

ドンケリココロ

一番と同じ様に、手は頭にのせたまゝ上體を左右に動

かす。

ヨロコンデ

談話

この月、年少組ではさりたてゝ解説を必要とする話、及

二人も拍手しながらそれ〴〵自分の周圍をいまはりする。

シバラクイッショニアソソンダガ

両手に向ひ合つたまゝさつて、スキップでまはる。

ヤツバリオヤマガ

二人向ひ合つて止り、両手を大きく前から上にあげ横

からおろす。

コヒシイト

兩掌を合せて右の肩の前に持つて行き、顔を右横にた

ふしてその手の上に右頬をつける様にする。

ナイテハドジョウヲコマラセタ

さんぐりは両手を顔にあてゝ泣く様子をし、ぎじよう

はこれをだます様子をする。

び話方が無いので省略する。

觀察

第八週

赤さんぼ

赤さんぼが始めるこ秋の深さを感じる。赤さんぼ（赤卒はあかゑんぼとも言ふ。これは、みやまあかね、あきあかね、なつあかね、のしめさんぼ、しやうじやうさんぼ等の總稱である。一口に赤さんぼといっても種類のあるここであり雌雄で色もちがふ（概して雌の方が黄色つばい）ここを知つて置かう。これは捕へたら普通のさんぼここがちがふかをよく見せる。序であるが普通しほからさんぼのここをしほやさんぼと言ひ、しほやさんぼの雄をしほからさんぼ、雌をむぎわらさんぼと言つてゐる。この蟲でもさうであるが特にさんぼ等にはがしてやり度い。しかしさんぼは可成り特長があるから逃がしてからさんぼを畫かしてみろ。ここも達の觀察について知る爲の助けになるであらう。

第九週

紅葉のおちば

幼稚園のお庭の木々の葉が一日毎に色づくこの頃はその日毎の色づきを眺める味はひある樂しみがある。殊にあの大銀杏は全體が一日毎にちがつた姿で眺められる。その黄葉してゆくのを注意するここには今日はぎの位、あさつては七分通り黄になつたこいふ様に注意するここ、されか特定の葉について紅葉の様子を觀察するここがある。後者については種々の方法もあるが色々な紅葉をあつめて大きな紙にそのまゝはりつけて側に葉の名を入れさせるのも遊びとして面白い一法。又布に置いてきぬたでたたき、色をそめるのも面白い法であらう。ぬりゑ等にするここも普通である。もみぢが落葉する理由は年長組で話す方が適當であらう。たゞこゝにわざわざ紅葉のおちばを別にした意味は兩者の意味がちがふ故である。

第十週

みのむし

これは誰でも知つてゐる親しみ深い面白い蟲である。昆虫の仲間では蛾で鱗翅目の蛾に屬する。雌の成蟲も幼蟲も共にみの中に棲んでゐる。平時は決して外界に出て來ないこと、一種のアンテナの様な役目の器官をもつてゐること等その習性も中々に面白い。九月末頃、種々の木に小さい一種位のみの蟲が澤山ついてゐる。それが此頃はもう大分大きくなり葉の落ちた木に下つてゐるのが目につく、外で遊んでゐる時ふさその一つをさる。注意してみのをさいてみる。中から出る裸蟲、驚いてゐる子さも達の目、そこでこの蟲は口から絲を出して木の葉をこしよにこんなお家をこしらへて入つてゐる話す。裸蟲の口をなで、引くミ絲を出すのがみられる。そうして裸にされた可愛さうな蟲の爲に小さな箱の家を毛絲のくづをきざんでかけてやる。翌日には毛絲のあたゝかさうなみのをきてゐるであらう。マッチ箱に一匹つつ斯うして藏つた私達の幼い頃を思ひ出すなつかしい材料である。

じゆす玉

禾本科植物のジユズダマ、田舎には多いのにこんな遊ぶにいくものが都會に少いのは残念なことである。世話なしに育つものだから幼稚園のお庭の一隅にあつてよい。主に實を觀察させるわけである。みざりから茶色に、すっかりみのるままつ白になる色の變化をみせその白い玉はつないで遊ぶ。白いのにエナメルで一吋模様をつけるきれいな首飾りになる。おもちゃの店を斯うした自然物を利用したものでもつきく賑はせるこみが出來たらと思ふ。

第十一週

けいこう

秋らしいまつ赤な鶏頭も幼稚園のお庭に素朴な味をもたらせる草であらう。鮮やかな色をたのしまう。實をこり入れるこみを子さもこしよにしたい。そして「この花は何に似てるかしら」をきいてみたら子さも達は何さ答へるか、こんな拙劣な問もこの花についてははしてみたい氣がする。

第十二週

霜

はじめて霜のおりた朝、寒い朝である。幼稚園のお庭の面やベンチなぎの木の所が白い。恐らく今迄あんまり霜になぎ注意しなかつたであらう子ぎも達には霜さいふものを、はじめておりた、はじめて寒かつた朝みせたいものである。

藤の葉柄

すつかり葉の落ちた藤棚の下はこのごろ毎朝澤山の細長

手 技

第九週

自由畫 魚 二回

前週に魚の繪の鑑賞をすませて、この週自由畫をして二回つづけて魚をかゝせる。

粘土 自在 一回

製作 三回

誘導保育案によるおもちゃやの品物づくり。
がてう

がてうを騰寫版なぎにて畫きて、きりぬかせ足のこころ

い葉柄が落ちてゐる。ごみである。掃き捨てるに何の躊躇もないものであるが、その丈夫な細い自然のひもはげぢくのおもちやになり、龜になり等して一日子ぎもの相手になつて呉れる。私達は太いこころが藤の木についてゐた所、そしてこの兩側に葉つばがついてゐた等話し乍ら子ぎも達ミ一しよにあんで遊ぼう。

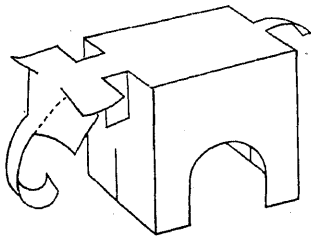
に圓形の臺をつけて立たせる様につくる。數羽つづつて小さい小屋なぎつづつてあしらふこよい。

象

出來上り圖の様につくり頭は幼兒にかゝせる。

刀

心を新聞紙なぎをくるくまいて途中刀の鑄をボール紙で



つくつて後で墨を全體にぬる。

第十週

自由畫 二回

ぬりゑ モミヂ 一回

このぬりゑの時には出来るだけ紅葉の實物を用意してそれをみながらぬる。

製作 四回

誘導保育案によるおもちゃ

ややつゞき

うさぎ

出来上り圖の如く兎をつくる

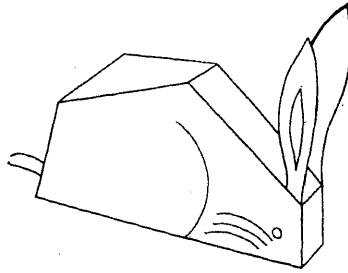
フラ〜人形

色とりどりの組紙で、手

足、胴をつくり畫用紙で顔をつくる。

人形の着物

人形花子さんの着物をつくる。人形に合せて和服をつくる。色のラシヤ紙或は畫用紙に模様をかゝせ色をぬら



る。

第十一週

自由畫 二回

ぬりゑ カミフウセン

これももみぢ同様おもちゃの紙風船を用意しておいてそれを見てぬらせる。

製作

おもちゃややつゞき

双六のさいころ

粘土で一センチ半位の立方體をつくり、乾ききつた上、

胡粉をぬり毛筆で、一より六までまるをかゝせる。

風車 二種

普通の風車 模造紙を方形に切り四角をあつめてマメゴムでこめる。

プロペラ風車

ボール紙を臺にしてプロペラ形に模造紙をはる。

第十二週

自由畫 三回

ぬり糸 コドモトマリ

製作

双六のさいころつゞき

お金

おもちゃや店の商品もほぼ出来上つたのでボール紙を丸

く切らせて、一セン二セン三セン十センなきかゝせてう

りかひ遊びの準備をする。

正札

畫用紙或は白ボール紙にお金同様に一セン、二セン、十

センの正札をかゝせる。

年長組、第二保育期

—— 満五歳、満六歳 ——

生活訓練

第十週

幼稚園さいふのところで、言葉の作法に就てきただけのことをしなければならぬか。さいふまでの要求が適切か。之れは相當の問題になる。こゝは此の問題を全面的に議論す

る場所でないが、ぎりぐりのところ、次の二つだけは必ず注意しなければならぬ。

(一) 先生がいう言葉を使ふこと。

(二) 言葉によつてその奥の心もちの養はれるものは幼児

にもよく注意すること。

この中、第一の方は解説の要もない。たゞ實際問題としては必ずしも注意の要がなくもないかも知れない。

第二の方は、一寸説明がある。たゞへば此欄に上つてゐる。「ごうぞ」、「ありがたう」、「お先へ」などの類は、人に對する敬意、謝意、讓意といった風の心もちを、その言葉から心の内へ起させるものである。幼児はかうした言葉を出さずにゐられない程の深い強い感じを内にもつものでもない。しかし、それだけの心もちは養つてゆきたい。そこで言葉の方から先きに入れてゆくのである。人のもつてゐるものを借りる。ひつたくつても使ひたい自分本位で、借して呉れいとも言ひそうなきころを、「ごうぞ」「ごうぞ」つけさせることで、ごうぞらしい感じをもたせるのである。ごうぞ借せやいごいふ譯にもゆかないから、借り方も靜かにならうごいふもの。英國のいゝ家の子きもなきが、よくブリーズごいふのも可愛らしいものだ。「有り難う」も同じで、そんなに深く感激してゐるごいふ譯ではなくても、人の好意に反應するやさしみの聲である。「お先へ」それは前の二つよ

り少々禮儀立つて來るが、人を押しのける心、人を追ひ越す心、そういふ、あらくしい心もちを、一寸、その出足の一步前ごいふごころで和げる言葉である。

言葉に限らず作法や禮式の教育がごうかするご、相手を尊敬するよりも自分を上品に見せる心を養ふごころがないごも限らない。そんな似而非お上品は、少くごも幼稚園では全く禁物である。言葉を始終心もちへ即させて、心もちの眞の作法、禮式を養ふための言葉の教育でありたいのである。

それにしても、氣になるのは、先生方のお言葉使ひである。

第十一週

小學校入學が近くなる。事實近くなる以上に、子きも達の心の中で近くなる。或は、子きも達本人よりも、親達の心中で一層近くなるかも知れない。當然のことで、又、よろこばしいごころである。

しかし、その小學校入學を迎ふる心が、必ずしも純なよろこび一本で通せないのは、現代の悲哀である。その中で、

誘導保育

幼稚園の先生の執るべき態度如何。先づそこからしかり腹をきめてかゝらなければならぬ。さうして子ども喜びに心を合はすべきか。子どもらしい希望をさう正しく描かせるべきか。その喜びと希望の明るさの中に、さういふ心構へを用意させるべきか。——それも、何も幼稚園を急に

第八週

人形の家つゞき

ラヂオ

文明の利器の中でも、最もポピュラーなもの、おそらくこの家庭にも備へられてあるであらうラヂオを、是非人形の家にも一言ふので計畫された。

一枚の板にラヂオの表の圖を描きて、之を鋸ミシンで切抜き、波長を合せる目盛りをつけ、これを表面にしてラヂオ箱を拵へる。度盛り器をくるくゝ廻る様にしたので、子供達は「JOAK、之から何々の放送がございます」と言つ、

小學校豫備門にするさいふのでは決してない。要は、お正月前、來年はの楽しみ心に、さう小學校を楽しみ附け加へさせるかの話である。實際の仕度も無いではないが、それは一歳大きくなつてからでよからう。

た調子で、拵へた當座は實に繁昌である。

諸道具配置

いよゝゝ立案されただけのものが略々完成したので、それらゝ人形の家に配置する。間口が三メートルもあるのでかなり広いお家が出来た。それで、衝立で二ツに仕切つて一ツは客間、一ツは臺所と言ふ風にした。客間の方には、先づズツクに果物の縫込みと言ふ面白い敷物を敷いた。まここに可愛らしく綺麗なので、大人の私共が家の應接間にも欲しいと言つた程だつた。こゝにはクリーム色に塗つて

縁を縁でふちぎつたテーブルを真ん中に据ゑ、同じ色の調子に塗つた椅子三ツ程を置いた。一隅には三角棚（之もクリーム色）を置き、上の段には可愛いらしい花瓶にお花を入れておき、下の段には、ラヂオ、幼児の作つたおもちゃの一二種を時折代へて置いた。客間の出窓には、例の苦心の作、植木鉢カバーに入れたベコニヤ、蘭等の鉢を、之又時々に変化せしめておく。

片方の臺所の方には衝立の柿の繪を向けておく方がふさはしい。こゝには蔭を敷いた。この方がずつミ臺所らしい感じが出る。そして水道のじや口までついた流し（棚二三段あるもの）を一面に、之に直角に、茶筴箒をおいて、お皿や紅茶のセット、罐詰等を棚の上のせておく。流しの方の棚や、折釘にはお鍋、フライパン、布巾かけ、おひつ、お釜、醬油樽、組板等所謂臺所道具を置く。大根、人參、キャベツ、葱、おじやが等の野菜は、籠に入れて流しのわきに置き、さんま、鯛、平目、いか、えび、蟹、蛤等の魚介類は大形のお盆（丸いビスケット空罐を塗料にて塗つたもの）に入れて臺所の臺の上におく。菊の花びらが組の上に料理し

かけてあつたり、小籠の中にほんもの、栗が入れてあつたり、クレープペーパーで拵へた松茸が入れてあつたりするミ、ぐつミシーズンが出て来る。こう一應諸道具を配置して見るミ、この家は幼児達にまつて嬉しいばかりでなく、身を入れてこれの製作指導に當つた吾々大人にまつても、實に嬉しい。味つても味つても飽く事のない愛著心が湧いて來て、いつまでもいつまでも見されずには居られないものミなつてしまふ。

完 成

大きなきれいな人形のお家が出来たミ云ふので、他の組の幼児達も、三三五五打ちつれて見に來て下さる。テーブルの前の椅子に腰掛けて、嬉しそうにして、一時を遊んで行く子供もあるのだ、こゝでほんミのお紅茶やお菓子を振舞つたら、みんなよろこぶだらうかと思ふミ、そうして見度いミ云ふ氣持になつて来る。そこで他の組の御招待ミ云ふ事になる。併しほんミのお紅茶にお菓子のご馳走であるから、他の組よりも前に、先づ自分の組の子供達に、受持の先生ミ實習生ミがウェイトレスになつて、ご馳走を

しておいて言ふ順序にせねばならない。これが済んで、次々ミ一組ぐらゐづゝをご招待してお紅茶ミボール等を馳走して見た。振舞ふ方も振舞はれる方もよろこびで一つぱい、實に楽しい一日である。

第九週

動物玩具のいろく

この案は、今までのミは一寸趣きを異にしてゐる。即ち或一貫したプロゼクトの下に、漸次、シーンが展開してゆき、之を誘導してゆくと言ふ意味のものミは考へないので、これを誘導保育の一案としてこの欄におくかきうかは、一同で協議した事であつた。併し實際さしてかういふ場合もあるし、またあつてもいゝから言ふ事で、こゝに加へる事になつたのである。あの欄に記載してある様に、象、人形、お馬、龜、おぎけ人形等、次々ミ手足の動く玩具を工夫して作り、それを一まきめにしてしまつておけるかばん等をも拵へて、時々出しては自分の好きなものを動かして遊ぶミ云ふ趣向は、私共大人でも大いに楽しい事である。事實、子供達は、ほんミうに嬉しそつだつた。そして時々

こつそりミ、自分の寶物でも出す様に、抽出から出して來ては動かして遊んでゐた。或時は、十數人相談で、同じ玩具を出して來て、お互の玩具がお互にお友達になつて、ミこかを見物に行くミか、遊ぶミか、子供の演ずる人形芝居を見るミか、誇張なしに言つて楽しい楽しい遊び方をしてゐた。ありつたけの工風をして案出した玩具が、みんな出來上つた時は丁度暮だつたので、暮のお土産ミ言ふわけで各自家へ持ち歸つた。

これの期待効果は、動かす仕かけの工風、手技、觀察ミ云ふ様なこと。

繼續作業時間は、年末までに仕上げ様ミ言ふので必然的に七週間ミなつたわけ。

此週は

象(作り方は手技の項参照)

色塗り、切り抜きまでは子供の仕事。これから先き完成までは大人の仕事になるわけだ。

第十週

人形(手技の項参照)

第十一週

龜

背中(丸みをつける)ミお腹の二枚が胴で、これに頭ミ二本の手、二本の足をつけ、真ん中に心棒があり、この心棒を上下するミ、頭、手、足が動く様に工風したもの。色は黒だから簡單。切り抜く。これから先の仕事即ち、心棒を拵へたり、之に手足を縫ひついたり、お腹ミ脊中を縫ひつけたりの仕事は大人の仕事になる。

唱歌遊戯

第九週

唱歌 二回

オニゴッコ(エホンシャウカ)

遊戯 二回

オニゴッコ(記事参照)

二人でジャンケンをして鬼を定め、勝つたものは自由な方向に逃げてそれを鬼が追つかける。

馬

お馬の上に赤い可愛い、騎兵さんが乗つてゐるミころ。心棒を動かすミ、騎兵さんが、手づなを引き、體を前後に動かす様に工風したもの。

第十二週

おぎけ人形

お人形さんが舌を出したりひつこめたりする様に工風したもの。お人形の顔はぎうにでも工風出来る。

最初の「オッカケルヨ、オッカケルヨ」の所でお互ひに拍手する時は、鬼は「さあこれからつかまへるよ」云ふ氣持、逃げる方は「こゝまでおいで、つかまへるならつかまへて御覽」云ふ様な氣持でするミ大變興味が出て來るスキップで逃げる間に鬼につかまへられたら二番をすゝる時に鬼になる様にするミよい。

第十週

唱歌 一回

前に歌つたものゝおさらひ。

遊戯 二回

子ころ子ころ(記事参照)

リズムに合せてあそびの動作をする所に、一層の快さを興味さを感じる。ひっぱりこをする時のその真剣な様子。はあく／＼手に息を吹きかけたりして負けまいと一生懸命にひっぱり姿は、本當に可愛い。

第十一週

唱歌 一回

落葉の兵隊さん

可愛らしく、齒ぎれよく、元氣に歌ひたい。

遊戯 二回

落葉の兵隊さん(記事参照)

元氣よくするこ。歌詞が三番まであり、前奏、間奏等を入れるとかなり運動量が多いので、男兒が殊に喜んでする。

第十二週

唱歌 二回

まがりかぎ(ゴドモノクニ)

倉橋先生のお作りになつた歌で、殊更に子供たちにも親しみ深い氣がする。

遊戯 三回

まがりかぎ(土川五郎氏振付)

大工さん

大工さんが山から大きな木を伐つて来てそれで樞を造るまでの工程を表現するのである、先づ伐つた木を仕事場へ擔いで行く。鋸で適當にきつて鉋をかけ、釘を打つ。それを繩で結へて樞が出来上り、喜んで雪の上をひつぱつて行く云ふ様子を表現する。樞を造る代りに家を建てるのにもよいと思ふ。力一杯出して動作をする様にした。仕事場の大工さんの様子を觀察させたいものだ。

オニゴッコ

オニケカッ
オニケカッ
ヨルケカッ
ヨルケカッ



コッゴニオケカッ
オケカッ



オニハマヒノハ
オニハマヒ
リハマヒ



オニハマタ
オニハマタ
マタ



オニゴッコ

戸倉ハル氏振付
エホンシヤウカ

準備 二人つゝ豫め組むしておく、自由な方向に進む。

オツカケルヨ オツカケルヨ

はじめにジャンケンをして鬼をきめてからすぐはじめる。二人向ひ合つたまゝその場を

動かすに歌詞に合はせて拍手三つづゝ二回行ふ。

オツカケオツカケオニゴッコ

二人さもスキップで進む、逃げる者は鬼につかまらぬ様に、鬼は逃げる者をつかまへ様

もし、二人共一所懸命に自由な方向に進む。

オニハノヒマハリヒトマハリ

今迄逃げて来た者はしやがみ、兩掌で花を作つて上にあげ、鬼はスキップでその周圍を

一まはりする。

ソラニゲヨ ソラニゲヨ

オツカケルヨの場合と同じ拍手三つづゝ二度行ふ。

オニサンオイデヨコツチデス

今度は今迄ミ反對に鬼であつた方が逃げる。

オニハノマツノキマタマハル

逃げて来た方の者はしやがむで兩手を肩の幅の上にあげ松の木を作る、鬼はその周圍を

一まはりする。

子さろ子さろ



子さろ子さろ

戸倉ハル氏振付
リズムエンドダンスフォア
エレメンタリースクール

準備 四人又は五人位づゝ相向ひになり、即ち八人又は十人が

一組になる。

お互に自分の側同志手をつないでゐる。今説明の都合上一方の側を甲の側とし、それに向ひ合つた側を乙の側とす。甲の側と乙の側と合はせて一組をなしてゐるのであつて八人又は十人である。

第一小節から第三小節まで。

甲の側は手をつないだまゝ四歩前進し、乙の側の近くまで行く、四歩目の足は爪先だけを軽く床につける。

第三小節から第四小節まで。

甲の側は四歩後にさがり元の位置に戻る。

第五小節から第六小節まで。

今度は乙の側が手をつないだまゝ四歩前進する。

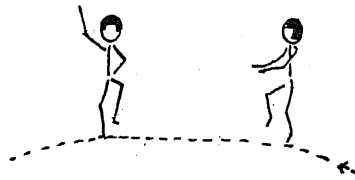
第七小節から第八小節まで。

乙の側四歩さがり元の位置に戻る。

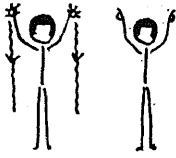
(曲は何回もくりかへして弾いてゐる)。

第一小節から第二小節まで

前奏



ニサイタイヘ ノバ子オ



甲の側も乙の側も夫々一番端の向ひ合つた者が前に出て行く、他の者は自分の位置で拍手してゐる。

第三小節から第四小節まで。

前に出た二人は片手をかたく握り合つてこれから「ひつぱりっこ」をする準備の形を作る。他の者は前と同じく拍手をつゞけて二人に向つて應援する。この時誰々さんしつかり「ミロ」に出して應援してもよい。位置は必ず自分の位置を動いてはいけない。

第五小節から第八小節まで。

前に出た二人は互に力の限り引き合ふ、そして負けたらば勝つた方の組にまられ、勝つた組の者ミ手をつないで又ははじめから遊戯をくりかへす。

次に又一番はじめの甲の側が手をつないで四歩前進するところから行はれ、前に出て引き合ふ所では、今度は第二番目の者同志前に出る。次に又ははじめからくりかへしてから第三番目が前に出る、かうして全部終つたなら最後の一曲では、甲の側も乙の側も一しよになつて手をつなぎ圓形を作つてスキップで圓周に沿つて進む。

落葉の兵隊さん 戸倉ハル氏振付

準備 一列圓形を作る。

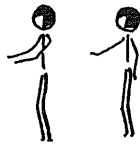
前奏

圓周に沿つて、両手を前にあげ手綱をにぎつて前進する。最後の一小節では、圓の中を

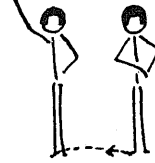
エウノカオ



シアケカ デマウオ



デバツ ラノメ スト
ヲテ ケテ



タテチテト



ウゴウゴウゴウゴ
イタクニク



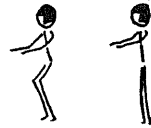
アハツラハ エココアハ
エココアハ



素 向



ホッカホッカ
ホッカホッカ
イタイイタイ



向いて止り、右手を上にあげ、肩を三度ふり、四度目に下におろす。

オチバナ

圓の中を向き止つたまゝで、はじめ左手を上にあげ、そのまゝで次に右手をあげる、この手は人指ゆびだけひろげ、他は握つたまゝ。

ヘイタイサン

上にあげた両手の指をひろげ、ひらくさせながらおろす。

トテチテタ

左手を腰に右手で上の方を向いてラツバを吹く、これと同時に四回足ぶみをする。

ススメノラツバデトテチテタ

左手を腰に右手で勢よく肩を引ぬく、同時に右へ一歩進む。次に又右手で左腰のミこころの肩を引ぬく、同時に右へ一歩進む。こうして合計四回同じこみをくりかへす、即ち圓周に沿つて横に四歩進むわけである、體はいつも圓心に向いてゐる。

オウマデ

右を向いて右手を前にあげる。

カケアシ

左手も前にあげて手綱をつかむ。

オカノウエ

そのまゝで膝を三度かるく曲げる。

カツポカツポカツポキヘイタイ

手綱を握つたまゝ、圓周に沿つて兩足揃へて前にまび乍ら進む。

間 奏

右手を上、左手を前にあげスキップで圓周に沿つて進む。

オチバノヘイタイサントテチテタ

ススメノラツパデトテチテタ

一番ミ全く同じ。

オヤマノオソラデチュウガヘリ

各自自由な動作で宙返りの表現をする。例へば兩手を左右にのばして飛行機の翼さし左へかたむけて左手を中心として左へまはり、次に右へかたむけて右手を中心として右へまはる。

ヒラヒラヒラヒラヒコウタイ

兩手を左右にのばし翼を作り右むけをし圓周にそつてラ

ンニングステップで前進するこの時翼は、はじめは内側に傾け、次に後半は外側に傾ける。

間 奏

前の間奏と同じ。

オチバノヘイタイサントテチテタ

ススメノラツパデトテチテタ

一番ミ同じ。

ヤマコエハタコエハラツパデ

右向けをしその場で動かずに、兩手を肘のまゝから曲げて、タンクの進む様に大きく四回まはす、この時指はひろげてゐる、又足は手に合はせて膝を曲げたりのばしたり四回する。

ゴウゴウゴウゴウタンクタイ

兩手を前について、床にはふ様にし、次に體を手のまゝろに引よせる。かうしてタンクの進む様にゆつくり圓周に沿つて前進する。

後 奏

前ミ同じ。

第九週

川中島の戦

戦ひの原因や勝敗は話す必要は無い。兩雄の武勇を思ふさま話して聞かせて、これは作り話もちがふから、その兩雄が火花を散らした川中島さいふ土地の名稱は覚え込ませてもいゝと思ふ。川中島さいふ名を聞いた時に、豪い大將同士戦つたさいふ、おぼろげながらも思ひ出す位に話してきかせる。

第十週

桃太郎

年長組のこの頃になつて、今更、昔々ある所にお爺さんとお婆さんがあつて……話し出すわけでは無い。さうかゝ云つて、日本中の子供は、殊に幼稚園に来るような子は、すでにもう桃太郎の話は皆知りぬいてゐる。だらうから全然省略、考へてしまふのも早合點のきらひがある。そこで、

方法はいろいろあらうが、その一つとして、まづ筋をはつきり覚えてゐる子一人に話させる、或は先生一人がみんなに問ひながら話す仕方もある。子供が知つてる知つてる云つても、例へば桃太郎が桃から生れて、もうすぐに鬼を征伐してしまつたさいふ、多くはそれで話をかたづけてゐる場合があるから、斷片的な子供の記憶を敷衍しながらまゝめてゆく場合が屢々ある。舌切雀や桃太郎などは多くこの方法を用ひる。

或は又、話はすつかり別になるが、日本童話選集中北川千代氏作「桃太郎さんの話」さいふのがある、面白く出来るから、これを話して聞かせてもいゝ。然し前の話がつかりのみ込めてからのこと。

七五三について

これは先生の方から積極に話すことでは無く、子供の話をきいてやる程度。多くは美しい着物を着て、楽しい所に

遊びに行つて面白い話になるので、中には祝延ばしを縁起よしとする家もあつて、在園中にこの祝に當らない子のあつる事も考へて、個人々々の祝には深くはいらぬようにしたいと思ふ。

第十一週

馬鹿な馬

イソップのものである。我が國幼稚園創設當初は多くイソップのものを談話材料にしてゐた。それはその頃修身はなしなさがあつたので、丁度イソップの持つ教訓がむかへられた爲であらう。今ではさうもあまり用ひられないが、

観 察

第八週

赤さんぼ(年少組参照)

ききやう

秋の秋らしい花であるから、ぬりゑをする時は非花瓶に用意したい。花の構造なご詳しくみせる必要はないが花の

まあ名残りの一つとして配當の中に入れたのである。これはごく短い話であるから、最初は先生が話してきかせるが、幼児が話してもいゝと思ふ。そのために短い話をこゝに選んだのである。

第十二週

羅生門

恐ろしい腕の話をして、久しい間避けてゐた。けれど一人の子の注文によつて、さうかと思ひながら話して見たら、大さう面白がつて、二度つゞけて話したこゝがある。この頃になるさ却つて恐ろしいのに興味を惹かれるのであらう。

色ミ形、蕾の形の特長をぬりゑをするについて注意する。

第九週

球根植ゑ

水仙、クロッカス、チューリップ等の球根を植ゑる時期である。もう少し早い頃でもよい。春の種蒔きの時の様な

注意をし、あき霜よけをする事も子ぎも達ぎ一しよにし度
いこごである。

菊(年少組第七週参照)

第十週

紅葉(年少組参照)

煙

おちば等をたいた煙の觀察、何ぎ煙みたいな事であらう
けれど何だか味ひある情景である。うす寒い朝先生もこぎ
もも落葉をはきあつめ、たき火する。もえる火、白い、蒼
い煙、こぎも達には斯うしたものをちつこみてぼんやりし
てゐる様な時がある。それをそつこして置き度い。

第十一週

葉の落ちたあきの木

幼稚園の紅葉してゐた木々は殆どみんな裸になつた、少
し暖い午後なき、裸になつた木をみ上げ乍ら葉のおちた後
この木は枯れてゐるのではなくて來年の春出る葉つばにこ
んなにかたい厚いきものをきせて小さくたゞんでしまつて
ゐるさいふ様にその葉痕の側の芽を一つむいてみ乍ら話す

こぎも面白事であらう。

山茶花

お庭がすっかりさびしくなつた今、目立たない隅にこぼ
れ咲く山茶花の濛い美しさを子ぎもこ楽しみみたい。

第十二週

霜(年少組参照) その上に細い氷のつぶであるこぎを注意
する。

暖房装置

附屬幼稚園ではステイムが通つてゐる。さうでなくこ
もストーヴか、火鉢か、何か暖房の設備があらう、それに
注意させるのである。すぐ氣付きさうでゐてわり合に等閑
にしてゐるのにもつこも思慮をうける身近いものがある。
危険を敢えてしたがるこの年頃のこぎも達だから火傷しな
い様に注意してきんなにしてお部屋があたゝまるか、そし
て暖いお部屋を冷くしない様にお互に氣をつけるさいふ訓
練的なこぎも當然わかる話である。

第九週

自由畫 一回

粘土 自在 一回

ぬりゑ ダリヤ 一回

製作

動物玩具のいろいろ

象

出來上り圖の樣につくる

下の棒を左右に動かす

象の頭が上下に動く

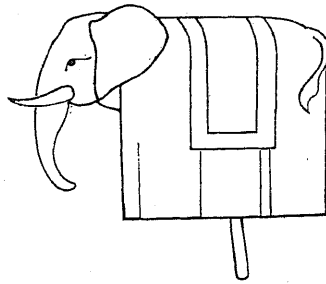
第十週

自由畫 七五三祝の繪

粘土 自在

ぬりゑ モミヂ

製作



人形

出來上りの人形の下の棒を上下に動かす

動く。

第十一週

自由畫 動物 二回

製作 四回

かめ

人形と同じ仕掛にてかめの手足を動かす様にする。

馬も亦象も同じ仕掛にて頭を動かす様にする

第十二週

鈿仕事 自在

ぬりゑ カラスウリ

出來ればカラスウリのなつてゐるところを見せるこよい

製作

こうなす人形

こうなすの舟に人形が乗つてゐて兩手を動かす様にする。

子供の繪に就いて

— 文部省主催夏期講習講演筆記 —

東京女子高等師範學校教諭

山 形 寛

幼稚園の圖畫の事に就いてお話しよと倉橋先生からお話がありました。が私は幼児を扱つた事がないし又幼児の圖畫に就いて餘り研究した事ありません。が圖畫に關係してゐますし、少しは理解もし、多少關心をもつてゐますので、外からみた幼児の繪についてお話しやうと思ひます。多少御參考になれば幸いです。

一 筋肉運動の統制

さて幼児の繪をどうするか、どう言ふ風にみるか、導くか、言ひますと、まあ色々の點から、みたり導いたりしなければなりません。まづ筋肉運動の統制といふ方面からみます。こどもは満二歳位から畫く仕事を始めます。お子様をもつてゐられる方や弟妹のある方はよくお判りのことと思ひますが、この時代には意味のあるものは書きません、鉛筆を握つて紙の上をぐるぐるこぬたくります。鉛筆やクレオンを興へなければ外に出て地面に棒でもんぐをかいたり食事の時テーブルに水をこぼしてかいたりします。兎に角紙の上には納まりません。紙の上に描くつもりでもついにはみ出してしまふのです。意志のまゝに手が動かないのです。が次第々々にそれが筋肉統制がされて來て意志の命するまゝに動く様になります。子供の時は繪を描くのも字を書くのもわけが判らないので、子供がゑを描くと言つても大人の様な心持でかくので

はないのです。物を作るのこまさはつきり分れてはゐないのであります。幼稚園にはいろいろの保育項目がありお仕事があるが子供は各獨立したものだとして考へてはゐないので。小學校に入りますころくの教科の別がありますが低學年ではまだあまり家庭生活をかき離れてゐるのでそれを改めねばならぬといふ運動があるのです。ですから幼稚園では猶のこま氣持の上で各々區別がありません。唯手を動かすここに快感があるのです。

筋肉運動を二つに分けるこまが出来ます。一つは基本筋肉の運動で足、手、首を動かす運動。もう一つは指や顔面筋の運動。この二つが統合してうまく發達して行くべきものであります。人類が今日の文化を築いたそのこまは人間の手の細かい筋肉によつて色々の器械が作られた事に依るのであります。が細かい筋肉のみが發達して大きい基本筋肉が發達しない人間が弱くなります。生活力も、體を丈夫にするには基本筋肉を發達せしめねばなりません。又細かい筋肉が發達しないこ頭腦の進歩がないのです。一體に勞働者は大きい筋肉のみ發達して不器用で頭腦が悪いのです。顔の表情をみても判ります。顔面筋肉の發達の程度でわかります。子供の運動の種類も大人のそれを較べてみますと子供の方が遙に種類が多いのです。生後十三ヶ月の子供には自發運動、反射運動、本能運動があり、停止運動、發表運動、熟慮運動さへあるこひます。その中では自發運動が一番著しいので大人よりずつこ多くなつてゐます。進化論の説に依るこ、人間が母の胎内に宿つた時から大人になる間には單細胞動物から人間に至る進化のあきをくり返すものだこ言ひます。子供の時代は未開野蠻な時代に當りますから大人よりも運動の種類が多いのです。しかし確實性がありません。運動と運動との間に競争が起り必要なものだけが確實になり發達するから unnecessary のはなくなりません。所が赤ん坊の時この統制がこれないこ文化人類に unnecessary の運動が残つてゐる病的になるこまがあります。頭を揺す人があつたり耳を動す人がたまにあつたりします

みんなも昔はそうだったが、必要がないから退化して今は一般に動かなくなつてゐます。捨て、置いて、も統制はされて行くが周囲から仕向ける運動が確實になるのです。そして、あゝ後世に役立つ様になります。鉛筆をもたせても紙の外へ出ない様になります。線を縦横に眞直に引くには可成りの統制力を必要とします。地平線をかくのは肩のコンパスで畫くのですから少々孤になるのもあたり前ですが、段々統制をこつて眞直にかけるやうになつて行くのです。我々が意志の命ずる儘に動けるこゝは非常に大切なこゝであつて、ゑを描くこゝのみによれません。遊戯や日常の仕事の間にも筋肉統制が出来ます。がこれも子供のいやがる仕事をさせても駄目でありました。喜んでする仕事で統制をきらなければなりません。低能児にはいきなり智識の方から入るこゝは駄目で筋肉の方から入れる可きであります。幼児にも次第々々でなくてはいけません。さうして十二歳位までに大體統制がされて來ます。それ以前の子供は兎に角有意運動が固まらないのです。目をつぶつて直立してゐるこゝか、後へ歩むこゝか、つまずかま先やかゝこゝで立つこゝか三十分以上正座するこゝか、はむつかしいのです。式でぢつと座つてゐるこゝなき幼児には無理なこゝなのです。遊戯や體操をするのでも強制してはいけません。統制でなくて害があります。そこを適度にして行きますと段々に統制がされて紙にぬたくつてゐるのが意味をもつたものを畫く様になつて來ます。

一體、體のこゝに精神が宿つてゐるか、こゝいふ事は中々むづかしい問題です。昔は頭にあると言つてゐました。あの人は頭がよいとかわるいと言ひます。心配事があると言頭が痛いと言ふ、又胸にあるとこゝいふ人もあれば腹にあるとこゝいふ人もあります。が今ではむしろ筋肉の到る所にある様に考へられてゐます。我々が一つの活動をするのにはどう言ふこゝが必要であるかと言ひますと、先づ外から刺戟が來ます、目、耳、舌、鼻、皮膚などから感覺器官を通して神経中樞に傳へます。するに中樞はそれに対応する運動器官に命令します。そこで運動が起るのであります。昔は中樞が基だと言つてゐました

がこの三つは次々に關聯して動くので運動感覺を鋭敏にさせることは精神の方を強くさせることになります。手で描くといふ働きによつて目や其他いろいろの感覺がはたらいいて中樞の働きを發達させるのです。仕事のコツを覺えるといふことは考へてするのでなく、すうつこしてゐる中に筋肉が覺えるのであります。殆ど反射的に運動する様になつて行きます。テニスや野球の練習も皆筋肉に覺えさせるのです。この點から筋肉に精神がある様に考へられるのです。十二歳を越しても段々發達しますが筋肉修練は小さい時からやらねばなりません。殊に發音なきさうで、小さい時の練習が大切であります。方言は直つても發音は仲々しません。發音、手技どれも幼稚園の時からその興味を以てしなければなりません。

そこで子供が段々に意味を有つたものを書く様になります。それも客觀的妥當性はないのです。自分ばかり判つてゐて、人がみては判らないのですが一つの意味のある表現をします。例へば子供は二階を描くことを好みますが梯子段を一本宛畫いてそれで二階だと言ふのです。何でも意味から行きます。この主觀的表現は尋常三年位まで残ります。四年になるに理科なきもあるようになるので段々に客觀的になつて行きます。

幼稚園、低學年の圖畫は上手下手は問題ではない、唯喜んで畫いてゐる中に筋肉が發達して來るのです。

二 表現欲の高潮

繪を喜んでかく様にするにはどうしたらよいかをお話しませう。繪をかゝせることの利益價值は多いが喜んでかく様にならなければなりません。大體の子供は喜んでかきます。それは想像力を働かす上から、又本能さしてもつてゐるからで

あります。

この問題を二つの方向から考へてみます。一つは造形衝動を持たせることであり、これは形のあるものを作りあげる衝動であります。子供は生れ乍らに發動する傾向をもつてゐます。それを發達させることが繪を喜んで畫くやうに導く要點であります。この造形衝動は誰でも生れ乍らにして持つてゐますが刺戟を與へないで發達しないものであります。ならばどんな刺戟を與へるか言ひますと、それには物質的環境をつくればよいことになります。いくら子供が中にもつてゐても何にも周圍になくは出来ません。物を與へなくてはならないのです。畫用紙と鉛筆、クレオンがあると言ふことに依つて子供は喜んで自ら畫く様になります。外に出ても棒切があれば地面に畫きます、幼稚園ではこの點總てそろつてゐますし、又そろつてゐなければなりません。繪本があり、子供の描いた繪があり、クレオンがあり、畫用紙があり、粘土あり積木ありと言ふ様に。これは決してむづかしい事ではなく心掛けがあれば容易なことあります。そしてこの物質的環境がミ、のひ、造形衝動が刺戟されて繪を描いてゆくミ段々創造が行はれてゆく様になります。今日の文化は皆これによつて出来たのです。創造させることは非常に大切なことあります。

第二のものミして仕事の衝動があります。これは手足を働かせて纏つたものを作り上げ様とする衝動であります。これもごの子供でも大抵もつてゐる衝動であります。これには物質的環境を作つてもだめで、社會的環境が必要であります。子供ミいふものは親が百姓で鳥を耕すのをみてゐるミ子供も外で親のまねをして蹴をもつて鳥を耕す。女の子は姉が裁縫するミまねする。原稿を書いてゐるミ四つ五つの子がそれを欲しがつてコマを何かかいてはうづめる、誰か側で仕事をす

るこまねして仕事をする。これには然し人間が必要で、人間がなければこれは發達しないのであります。昔は學校教育がなかつたから商人はその子を自分の力で一人前の商人に育て上げたわけであります。これは子供に仕事の衝動があるからで、それ程面倒なこころではなかつたのでありませう。小さい時から商賣をするこいふ氣持が養はれるのであります。まゝごこ遊びは家の者が料理して御飯を炊くの見ても眞似をするからであります。仕事の衝動なのです。そのよしあしは別にして社會的環境をつくるのです。うんミカのある先生は教授法を無視しても教育が出来ます。こいふのは先生が勉強するから自然生徒迄出来る様になります。生徒を通じて先生の力を知ることが出来ます。教授法的研究、畫の研究をしてゐる先生の生徒は手が上ります。即ち先生は子供こ一一緒に描き、子供こ一しよに遊戯し、手技をしなければなりません、子供こ一しよになつて、子供の氣持になつて喜んでしなければなりません。社會的環境を作らなければなりません。共に跳ねまはつたりして遊んでやらねば全然先生の値打がありません。幼稚園では子供こ共に遊べる先生も、又反對に別な先生も必要ですが、お仕事なごでも教へる様なのでなく一緒に楽しんでする様にしたいものであります。

かうして刺戟して仕事をした結果は次の仕事の衝動を刺戟します。仕事の興味を覺えるこ尙更その仕事をしないでゐられないこいふ様になるのです。仕事をする性分こいふのは若い時からこんな風にして來た人なのです。繪が描けなくてきらひいな様ななきもには馬が兎になつてもいゝから子供こ一しよに畫いてゐる中好きになるのであります。

III 色いしん

昨日クレオンの色について質問を受けましたのでその答へをするこいふ意味で色のこころを少しお話いたしませう。

色の名にも色々ありあつて、商賣に依つて同じ色のちがつた呼び方があつたりして中々にむづかしいものであります。和田三造氏が色の名前を統一しやうとして色名帖といふのをつくられました。これは日本標準色協會で發行してゐます。

かうして選んでみても色々いふものはむづかしいもので同じ色の染料を用ひても布地によつて感がちがふし、同じ色のクレオンでかいても紙質によつて感がちがつて來ます。そこで幼稚園ではぎんな色をえらんでこどもに使はせたらよいかと言ふ事になりますが、小學校の場合でも文部省で教科書に色を用ふ場合に色々苦心してゐます。小學校でも色々研究されましたが、第一に子供の好きな色をえらぶ事にしたのです。そこで子供の好きな色を調査した所が、茶か黒かかを好まず、赤、紫を好みます。がこれ等は日本の風物の寫生には適しません。そこで第二として太陽スペクトルの色といふ案も出しましたが、色彩教育上はよろしいが、出すのにむづかしい、よく出たにしても鮮明すぎる、そこで第三として日本の風物を描くのに都合のよい色をえらぶといふ事にしました。それによつて小學校で用ふ色は、教科書の一頁に出てゐますが、赤、青、空、黄、緑、カーキ色(印度の語で泥土の意)茶、黒の八色を小學一二年の色とします。三四年になるこ色數がふえます。八色の他に黄ばんだ緑、即ち草色、橙色ある色、こげ茶、鼠色の五色を加へます。幼稚園では色數の餘り多くない方がよいのです。この時代にはデリケートな色彩觀念はないのですから色數を多くするにたとへ混亂するばかりです。大體八色位が適當と思はれます。序にクレオンはぎんなのがいゝかご申しますこの1、軟いもの、2、色彩の鮮かなもの、3、書いた感の粉つぼく見えぬもの、等です。クレバスは少しベタ／＼して感がよくありません。展覽會等に出すには明瞭に現れていゝが非常に減り易く不經濟でもある。クレオンは染料的な感じでピカ／＼して品がない。その點色鉛筆は顏料的の感で上品でありますが折れ易く、それに削るのが大變です。

顔料や染料にはさうしてもスペクトルの様な純粹な色は出ません。水も蒸餾水は美味しくない様なもので色も混り氣が

あつて始めて味はひがあるのです。従つて名前もはつきりしません。緑と青を混同したりしてはいけません。

四 思想内容補充

そこで昨日のお話のつゞきにうつります。

こゝで言ふ思想こいふのも近頃やかましくいはれてゐる様なものではありません。子供のもつてゐる考へ方や精神生活の内容こいふこゝでこれも擴充するやうにしなければならぬのです。こゝに子供のかいた繪がありますがまづ年長組の子供のかいた繪について内容をしらべてみました。單に一度かいただけでも可成り色々の材料をみてゐますから相當豊富な思想内容をもつてゐるこゝが解ります。又男兒女兒でもがふ事もわかります。試みに表にしてみます。

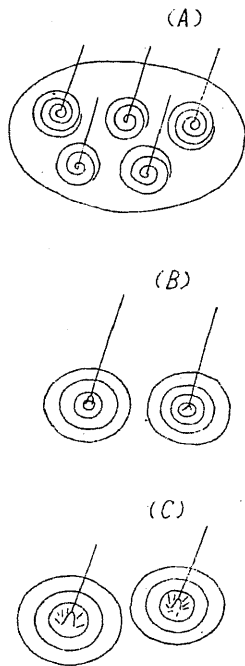
内 容	男兒(84)	女兒(47)
自動車	14	0
飛行機	12	0
電車	6	0
タノク	3	0
船	14	5
汽 車	(軍艦多シ)	(ボート船)
動物	11	5
家	ろンキ	(トリ 猫)
樹	のリス犬オタ	8
人	のキタ	6
山	ラ魚	21
日出	9	(女子ヲカク)
花	4	3
	5	2
	4	13
	0	
	2	

上の表でも判るやうに男兒は動的なものを描き女兒は靜的なものを多くかきます。これをもつて數多くしらべたら面白いと思ひます。一人の子供に就いてみますと三人を描く子はいつも人、家を描く子はいつも家こいふ様に大抵同じ繪を描いてゐるのぢやないかと思ひます。一人の子供の描く繪の材料の範圍は餘り廣くはないだらうと思はれます。以前に私が小學校低學年をもつてゐた時毎日子供の好きなものを描かせてしらべて見た事がありましたが大抵始めの

三、四回は同じものを描いても次からは違つたものを描く様であります。無理にちがつたものばかり描かせる必要はない

のですが次第にかはつたものをかゝせる様に導き度いものであります。そうしなければ思想内容を廣くすることに出来ません。自然に異ふものをかく様にしむけるのです。ちがふものをかいた時「あなたはこんなものも描けるんですね」といふ様にする。よし非常に拙くても褒めてやります。するまじ色のものが描ける様になります。

小學校では、幼稚園から来た子供の方が家庭からすぐ来た子供より上手であります、上手にかいても將來伸びる子も伸びない子もあります。繪本をみてかいた様な一つの形式を持つたかき方をする子供は尋常二三年で止つて伸びませんが拙くても自然を見て、即、實感から描く子供は伸びます。繪本的な繪をかいてるて伸びた子供は私の知つてゐる範圍では二人しかありません。成るべく實物を見て描かせる様にし度いものです。地味な繪を描く子は伸びます。



子供は觀察が鋭敏で中々おもしろいのです。もじ或小學生が池の面に雨が降る繪を描いた事がありました(A)。するまじ次にはうづ巻でなく、輪にして足を一寸もり上らせました處(B)他の子が先生ちがひますと云つてピツ／＼はねる所を加へました(C)。一體都會の子供は小伶俐ですが大してよく觀察してゐなく斷片的なものをもつてゐますが基本的なものをもつてゐません之に反して田舎の子供は一つのものをよく觀てゐます。都會の子供のやうに象や河馬は知らないが年中見てゐる牛については習性迄よく知つてゐるまじふ様なものです。

都會の子供はよく知つてゐる様で案外知つてゐません。附屬高女の入學試験に梅と竹の葉の區別を言はせたら梅には葉が

ないこ答へた子がありました。又尋常一年生に太陽三月のちがひを言はせた處ある子供はお日様には棒があるがお月様には棒がないと言ひました。又お顔が異ふと言つた子供もあります。これは太陽から直接得た感を言つたものではありませぬ。観察から出發したものを描かせ度いものであります。近頃はやりの流線型でも極端なものが多く様です。繪本やお手本など見て覚え書きする子供があるからです。もう少し幼稚園で觀察をしつかり行ひ度いものであります。

次に幼稚園では小學校の教育を受けるに都合のよい様に身心を發達させるいみで尋常一年では何ういふことをしてゐるかをお話いたしませう。圖畫の教科書いふものも段々變遷して來てゐます。はじめ毛筆畫帖いふのがありましたが、明治四十年頃に新定畫帖いふのが出來ました。之は當時心理的だこいはれてゐましたが、今から見ると論理的であります。まつ水き空の繪、これは手を軽く左右にうごかす練習です。次に上下にうごかす練習で森をかく、次は斜に動かす練習で山を描く。こいふ様なものであります。その中に自由畫も少し入つてゐました。大正七年頃山本鼎こいふ人が臨畫を排斥して自由畫をやらせた、實物から、又想像でかゝせる畫であります。それで次第に自由畫が盛になり、昭和七年に現在の項目が出來たのであります。その内容は、一年生で一學期の始と終、十二月の終、三月の終に一回づゝ好きなをかゝせるこいふのがあり、他は皆題目を決めて思想畫、圖案、寫生、をやらせてゐます。併し餘り時間に自由畫を描きものますから相當に自由畫はしてゐるわけです。まつ始めから題目をあげてみます。

第一學期

1、自由畫、2、ヒノマル(臨畫ではない、門にかゝげた様にかゝせる)。3、お日様、4、圖案(花を並べる)、5、好きな花、6、風船玉、7、木が生えてゐる、8、走れ自動車、9、玩具の電車(寫生でありますが一年生では思想畫の

區別がつかないのです。けれど實物ミ結びつけるさいふ點效果があります。10、葉を列べる、11、色紙の畫(色紙をむしつてはりつけた繪)、12、川あそび、13、おふねが通る、14、橋がある、15、好きなもの。

第二學期

1、廣い野原、2、提灯、3、立つてゐる人、4、桃太郎、5、山と海、6、お月様、7、圖畫(三角四角)色紙を並べる、8、夕焼小焼、9、繩飛び、10、美しい秋、11、學校の門、12、好きな家、13、赤いリンゴ、14、好きなもの。

第三學期

1、お正月、2、おもちゃの寫生、3、兎、4、火鉢にあたつてゐる、5、明るい電燈、6、雲だるま、7、飛行機、8、好きなもの。

以上一年生には臨畫はなく思想畫多く寫生圖案が少くなつてゐます。二年になるミ寫生が増し思想畫が少くなります。三年になるミ寫生が多くなり用器畫、及臨畫がはじめて出て來ます。四年になるミ思想畫又少くなり寫生が増します。五年では思想畫は一、二回になります。六年では生活指導さいふ意味から圖案が多くなり高等科では一層圖案が多くなります。

五 幼兒及兒童の繪の特色

(一)まづ子供は直觀したものをそのまま再現することは殆どありません。あちこちから見聞したものを羅列的に描くのです。自分の生活内容を渾然とかくのです。種々の觀念の聯合したものを羅列的にかくさいふのが子供の繪の特色であります。子供は紙の真中からかき始めて、次々ミかいてゆきます。一から二、二から三、ミかいて行きますが一ミ三ミの關

係はさうあらうかまはないでゐます。又それを咎める必要もないのです。

(2) 子供は畫に於て大ききの比較がむづかしいのです。尋常三年位から大ききを注意し始め、四年頃では皆大ききの關係を注意するやうになります。

(3) 大人は畫面を客觀的にみますが子供はその繪の中に自分が入つて了つてゐます。ですから未來派の繪の様なのがあるのです。

(4) 繪の約束さいふものも知らず、何にもさらはれずにかきますから、感じたまゝ卒直に純粹にかきますから純一であります。この純一さが尊いのでありますからこれを失はない様に指導しなければなりませんし、こゝもの繪を見るにも、色や形の巧拙より、感さ純粹なものか否かを見るのが大切であります。

今日は猶一つだけ注意すべき點を申しませう。それは個性的な表現を獎勵したいさいふこゝです。

個性は先天的なものですから教育の力で後天的に全然かへる事は出来ません。三つ子の魂百迄さいふ諺もある位であります。しかし導き方に依つてよくない個性を抑制し、よいものを伸して行く事は出来ます。子供は、殊に幼児は個性が固定してゐません。はつきり出来るのは女の子の方が少々早いが大體大人になる前、十七八歳位です。しかし個性の表れはあります。子供の繪でも甲の子乙の子の一本の線の描き方にも差異があります。その個性を見出してこれに合ふ様によく導く事が大切であります。殊に圖畫は個性がよく表れ、認め易いからこれを認めて伸してやらねばなりません。

そこで個性とは何かと言ひますと、學問的にはむづかしが個人と他の個人と區別されるべき性質であります。こゝにゐる五百人の人は皆同じ様で、甲乙丙の違ひはごくわづかでありますがよく見るにみんな違つてゐて間違ふ事はない。

それが個性であります。犬と人とを持つてくるは随分異ふけれども人同志では共通普遍性があります。その中で又特殊の性格があります。物の考へ方や見方にも普遍的性質と、特殊の性質とがあります。この特殊の性質を伸ばす事が大切な事です。が普遍的性質を阻害するわけではなく共通普遍性の上に立つて特殊性を伸ばすのです。我々が世の中に存在する意義は各々特殊な性質を持つてゐるからです。他人にまねの出来ぬものがあるからです。それで個性を伸ばすことは人間の存在價值を増す事になります。

個性は又微妙なもので、一本の線にも皆異つた味ひがあるものであります。例へば同じ北宗派の人であるから共通點があるべきですが、雪村と雪舟では大變ちがふ様なものです。又大和繪の方でも信實の線は他の人が真似の出来ない線であります。有名な三十六歌仙の線を見るにやさしいが、この中に非常に強いものがあり、誰も真似の出来ない味ひがあるのです。幼児の繪でも線の動きが一人一人特徴があり味ひがあります。その各自の個性を展ばして面白い味ひを尊重してやらなければなりません。

六 模倣と創造

これは一見反對のここの様に思はれますがそうではないのです。子供は模倣性の發達したものであります。子供はよく隣の子のをみてかきます。本能的に模倣します。しかし一面から見るに創造性に富んでゐます。模倣性は將來發展を來すものでありますからこれは尊重しなければなりません。創造性をより以上に伸ばさねばなりません。模倣と創造は密接な關係があるものです。人間が行動を起す時は模倣の要素と創造の要素とがあります。個性があり、創造するのですから創造する機會を多くする事が大切であります。模倣性の強い子供は、創作的なこころをした時、褒めてやる様に段々に創造

性を増してやる様にしたいものであります。子供の繪をみるにも子供らしいものか否かを見るに同時に創造的要素の多いか少いかをみる事が大切であります。

七 結 論

こゝで幼稚園の圖畫をどうするかをまごめめます。幼稚園でする圖畫は手技等ご區別を設ける必要はありません。そして遊戯的にし、出来る丈け描く機會を與へるのです。一枚づゝ批評する必要はありません、澤山の中から面白い繪はみんなに見せるごよいご思ひます。子供にみせる繪は子供の繪を、上手下手でなく着想の面白い繪をみせるごよいのです。同じものばかりかいてゐる様な子供は趣のちがふのをみせ適當に指導します。又描かない子供にはかゝせる様にやさしいものから、始めはぬる丈けでもいゝから段々にかいて見せたりして描くやうに導きます。繪本を見て描くのもよいが觀察したもの、記憶してゐるものを描く事を本體ごし度いものです。殊に實物をみてかゝせ度いものです。その場合は先生も一緒に寫生します。先生が寫生してゐるご黙つてゐても模倣性の盛な子供は喜んでかきます。

こうして描く事の外に色紙や色テープをちぎつて貼り紙で表すのも面白いものです。又木の葉ごか、木の實ごか、色紙の打抜いたもの石コロ、豆、マツチ、等を竝べたり揃へたりして圖案的な遊びをするのも面白いごこです。これに似たのではケシゴムかコルクで色々な形の判をつくりスタンプを押して模様遊びをするのもよいごこです。こんなのは店屋ゴッコの飾り等に面白いものです。塗りぬもいゝものです。或輪畫の中に塗るのですから機械的ではありませんが筋肉統制、整頓、注意力を養ひます。この他形を描いて色を塗つて切る仕事もあります。型紙にうつしてから切るのでもよいのです。

最後に繪を見せるごいふ事をする事です。小學校中學校では中々やかましく言はれるごこですが、これは廣く美的觀念

を養ふのが目的で繪描きにするのではないのです。物のつり合ひなきがわかる様になります。幼稚園時代から斯うした美感を養ひ度いものであります。それにはよい繪を見せる事が大切であります。額を掛けるにしても成可く本物の立派なものをかけ度いものです。印刷物でもよいものならよいと思ひます。よいものをみせるに知らずくの中に子供達はそれから感化を受けるものであります。アメリカではミレーの種まきの繪を子供にみせ、その形を細くさせて氣分を味はせ、段繪を見る氣分を養ふこいふのもあるのださうです。先生が描いてみせるのもよい事です。兎に角よい繪を見たり、よい音をきいたりする事は、たごへ判らなくてもよい影響を與へるものであります。よいものを觀賞させる事は非常に大切な事であります。(以上文責在編輯部)

第七回世界教育會議が來昭和十二年八月

一日より凡一週間、東京に於て開催せられます事は皆様もお聞及びご存じます。

その就學前教育・幼稚園部では倉橋主幹が連絡委員にて、既に數回委員會を開かれ、着々ご準備を進めてゐられる由であります。尙詳細が決定されましたらば本誌上に發表の豫定であります。

遊戯の歌と曲

「系統的保育案の實際」の中の遊戯の歌と曲を全部便利に一まごめに致しましたものを筆記代用としてこしらへました。附屬幼稚園にて用ひてをりますが、まごごに重寶でございます。御希望の方には實費金五拾錢にておわけいたします。當協會宛にお申込み下さい(代金は郵券にてお送り下さるもよろし)。

尙講習の折の遊戯曲目は全部おわけしてしまひました故御承知下さい。

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

日本幼稚園協會規則

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽一
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 附屬幼稚園主事 倉橋 惣三

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條 今聞キ望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。

但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)
 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シテ二委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	金參拾五錢
半年分	金貳圓拾錢
一年分	金四圓貳拾錢
拾貳冊送金	共拾五圓
拾貳冊送金	共拾五圓

特等面一頁 二等面一頁 金貳拾圓 金拾圓 以下等面一頁一頁以下 金拾五圓 御斷

神田區駿河臺一丁目品田 廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)
 昭和十一年十月十五日印刷納本
 昭和十一年十月十五日發行
 幼兒の教育 第二十六卷 第十號

不許複製 轉載

發行所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 編輯者 倉橋 惣三
 發行所 柴山 則常
 印刷者 柴山 則常
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 會社 杏林 舎
 東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

日本幼稚園協會

振替口座東京一七二六六番

注文規定

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税)で願ひます。(郵券代用の場合は總一割増)です。
 一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越え願ひます。
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帯封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

著名園稚幼の書圖洋東

好評八版
東京女高師教授
附屬幼稚園主事
倉橋惣三先生著

四六判美本
口給多數入
定價二圓五十錢
送料十六錢

幼稚園保育法眞諦

▲著者は我國保育界の耆宿、本書は現代に於ける最も完備したる統ある保育原論の眞諦を懇述し、秀なる新保育法の實を多數採載せる最精最良の保育参考書。

【版三】
東京女高師教授
倉橋惣三先生
新庄よしこ先生
共著

本幼稚園史

菊判三六頁
價三、八〇
送〇、一八

苦心二十年の結晶完成、日本幼稚園史として比類なし。歴代皇后陛下行啓の榮を得し我が國幼稚園本山の大記念塔である。

【版七十】
奈良女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

幼稚園の理論及實際

菊判三八頁
價三、〇〇
送〇、一八

保姆檢定唯一の最良参考書、幼稚園書の王。内外の實際古今の理想悉く一卷に收められ、理論的形態完璧にて些の遺憾なし。

【版六】
奈良女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

幼稚園の經營

栗判三六頁
價二、八〇
送〇、一六

鑒け方要目・保育要目・標準施設・時間配當・託兒所經營等の重要問題を解決明示し、更に經營概論・保育諸問題等々懇説す。

【版三】
東京女高師教授
附屬小學校主事
附屬幼稚園主事
堀七藏先生著

幼稚園保育の諸問題

栗判三六頁
價二、八〇
送〇、一六

幼稚園經營並に保育實際に關する理論と實際の諸問題解決。小學校との連絡問題に付懇説。又保育實際に理論付けらる。

【版八】
奈良女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

保姆教育學

菊判二二頁
價二、八〇
送〇、一六

保姆檢定試驗規則による1教育2兒童心理3教授法4管理法の大意を網羅せる保姆必須書。各府縣檢定指定の唯一参考書。

【版六】
奈良女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

幼稚園保育兒法

菊判三五頁
價二、〇〇
送〇、二二

育兒法は保姆資格試験の必須科目で、本書は其の唯一参考書。保姆養成所教科書。附録に健康保療法種痘法等掲載し懇切を盡す。

東京大阪 東洋圖書株式會社發行

東京市神田區神保町一丁目 大阪市南區堂寺町一丁目
東京(替振) 一〇三〇番七三番 大阪(替振) 三九三五番六

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
（毎月一回十五日發行）

昭和十一年十月十三日印刷納本
昭和十一年十月十五日發行

定價三十五錢



了 子 共 踊 舞

石 井 漢 著

天地左右約八寸五分
最高級クローヌ本綴
豪華裝幀 内容別添
上質厚紙新鑄活字組
顯明快 振付寫眞約
二百四十 紙數一百
十餘頁 箱入。
定價
金二圓五十錢
送料 十錢

本書は野口雨情、葛原しげる諸先生を首め
童謡大家の作品に、小松耕輔、中山晋平の諸
先生及新進作曲家の曲を配し、之に著者がそ
の蘊蓄を傾けて振付を爲す。蓋し酒々として
童謡舞踊氾濫の現代に、眞に舞踊の基礎に立
脚し、幼児舞踊の基本的要素より一々手をと
る如く丁寧に指導せるもの則ち本書である。
收むる所二十曲目。

株 式 會 社 フレールベール館食

東京・山崎・二丁目九番電（33）三六二七 大阪・東區・富田町五番電（24）九一八三番